

第886回宮城県教育委員会定例会日程

日 時：平成28年11月16日（水）午後1時30分から
場 所：県行政庁舎16階 教育委員会会議室

1 出席点呼

2 開会宣言

3 第885回教育委員会会議録の承認について

4 第886回教育委員会会議録署名委員の指名

5 教育長報告

- (1) 損害賠償請求調停事件に係る調停成立について (総務課)
- (2) 石巻市立大川小学校訴訟への対応について (教職員課)
- (3) 宮城丸の物損事故に係る和解について (高校教育課)
- (4) 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について（中間まとめ） (高校教育課)

6 議 事

- 第1号議案 職員の人事について (教職員課)
- 第2号議案 平成30年度（平成29年度実施）教員採用候補者選考方針について (教職員課)
- 第3号議案 平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について (高校教育課)
- 第4号議案 宮城県生涯学習審議会委員の人事について (生涯学習課)

7 課長報告等

- (1) 市町村立小中学校における在校時間の状況について (福祉課)
- (2) 平成29年度宮城県・仙台市公立学校教員採用候補者選考の結果について (教職員課)
- (3) 平成27年度における児童生徒の問題行動等に関する調査（宮城県分）
の結果について (義務教育課・特別支援教育室・高校教育課)
- (4) 平成27年度における宮城県長期欠席状況調査（公立小中学校）の結果
について (義務教育課)
- (5) 平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜に係る第1回志願者予備調
査について (高校教育課)
- (6) 平成28年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について (高校教育課)

8 資料（配付のみ）

- (1) 教育庁関連情報一覧 (総務課)
- (2) はばたけ世界へ 南東北総体2017 プレイメント (全国高校総体推進室)
- (3) みやぎ総文2017「ニュースレターNo. 10」 (全国高校総合文化祭推進室)
- (4) 平成28年度日本遺産決定「政宗が育んだ”伊達”な文化」 (文化財保護課)

9 次回教育委員会の開催日程について

10 閉会宣言

石巻市立大川小学校訴訟への対応について

1 事件の概要

原告：東北地方太平洋沖地震後の津波災害で、石巻市立大川小学校で死亡・行方不明となった児童のうち23名の保護者29名

被告：石巻市（学校設置者・教職員の服務監督権者）
宮城県（教職員の給与負担者）

請求の要旨：原告が被告に対し、総額約23億円の賠償を求めるもの

提訴日：平成26年 3月10日

結審日：平成28年 6月29日

判決言渡日：平成28年10月26日

2 事案の経過

平成23年 3月11日：東日本大震災発災
大川小学校の児童74名及び教職員10名が死亡
又は行方不明

平成23年 4月～：石巻市が10回にわたり大川小学校児童の遺族
（保護者）説明会を開催

平成25年 2月：石巻市が第三者による大川小学校事故検証委員会
設置（平成25年2月～平成26年2月）

平成26年 3月10日：原告側が県市を被告とし、仙台地方裁判所に提訴

平成28年 6月29日：仙台地方裁判所で結審

平成28年10月26日：判決言い渡し

3 第一審の判決内容等

（１）判決内容

① 被告らは、原告らに対して、連帯して総額14億2,658万3,714円の損害賠償金及び遅延損害金を支払うこと

② 訴訟費用の5分の2を原告ら、5分の3を被告らの負担とすること

(2) 主な判断理由

- ① 地震発生前及び地震発生から午後3時30分までの間の避難に関する教職員の注意義務等の違反はない。
- ② 一方で、石巻市の広報車が大川小学校横の県道を通過しながら、津波が北上川の河口付近の長面地区沿岸の松林を越えてきていることを告げ、高台への避難の呼びかけを聞いた、遅くとも午後3時30分以降は、教員は大規模な津波が大川小学校に襲来することを予見したと認められる。
- ③ 午後3時30分以降に教員らが目指した学校近隣の交差点（三角地帯）は、程なく大津波が襲来することが予見されていた中での避難場所としては不適切で、津波による被災を回避しうる裏山に避難しなかった点で教員には結果回避義務違反の過失責任が生じる。

4 控訴日

平成28年11月7日（月）

- (1) 10月30日に石巻市の市議会が開催され、控訴の提起に関する議案が可決された。
- (2) 石巻市の控訴に向けた判断を踏まえ、県としても早急に控訴を提起する必要があると考えられたことから、11月4日の県議会の議員全員協議会での説明を経て、知事が地方自治法第179条第1項の規定に基づく控訴提起の専決処分を行い、11月7日に控訴を提起した。

5 控訴理由

- (1) 一審判決では、県が、過去の判例に基づき主張していた予見可能性の判断について判示されておらず、過去の津波訴訟の判例と整合性が図られていないこと。
- (2) いわゆる三角地帯を避難先として選択したことを不適切と断じ、教員に結果回避義務違反の過失責任があるとする一審判決の内容については、県及び石巻市が主張してきた内容を否定するものであること。
- (3) 多少の混乱は構わず、裏山に避難すれば難を避けられた、とか、教員は児童の安全が最優先であり、避難所である学校に集まっていた高齢の避難者については、教員の注意義務を考える上で考慮する必要がない、として、在校児童と地域の高齢者を含む避難者全員を、安全に避難させようと全力を尽くしていた教員の努力を否定する形で、教員の過失責任を認めたこと。

第2号議案

平成30年度（平成29年度実施）教員採用候補者選考方針について

平成30年度（平成29年度実施）教員採用候補者選考方針について、教育長に対する事務の委任等に関する規則（昭和31年教育委員会規則第12号）第1条第1項第6号の規定により、別紙のとおり定める。

平成28年11月16日提出

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁

(別紙)

平成30年度（平成29年度実施）教員採用候補者選考方針

1 教員採用候補者選考方針

- (1) これまで宮城県と仙台市が合同で実施してきた教員採用候補者選考については、平成29年度から仙台市への県費負担教職員の給与負担等の権限移譲に伴い、宮城県と仙台市それぞれの教育委員会で教員採用候補者選考を実施する。
- (2) 宮城県教育委員会では、より多くの受験生を確保しつつ、これまで以上に人物重視の選考を行うため、別添のとおり選考方法の見直しを行うこととし、宮城の教育を託すのに相応しい人材を採用することとする。

2 実施時期

平成30年度（平成29年度実施分）から実施する。

(別添)

平成30年度（平成29年度実施）教員採用候補者選考方法

平成29年度（平成28年度実施）教員採用候補者選考からの変更点

No.	今年度実施	来年度実施
1	新規	「地域採用枠」を新設 （小学校のみ） →南三陸教育事務所管内において採用後10年間程度勤務できる者を対象
2	新規	「特別支援学校枠」を新設 （小学校のみ） →小学校教諭と特別支援学校教諭の両方の免許を持ち、採用後は主に特別支援学校へ勤務できる者を対象
3	新規	「小学校英語採用枠」を新設 →小学校教諭及び中学校、高等学校いずれかの外国語（英語）教諭の両方の免許を持っている者を対象
4	新規	英語志願者に対して資格所有を義務づけ →中学校「英語」、高等学校「英語」を志願する者に対し、以下のいずれかの資格保有を求める（平成32年度実施分以降義務づけ） ①英語検定2級以上 ②TOEIC550点以上 ③TOEFL(iBT)60点以上 ④国連英検B級以上
5	新規	複数免許保有の促進 →高校「地理歴史」「公民」の志願者に、「地理歴史」「公民」両方の教科の免許状の所有を求める（平成32年度実施分以降義務づけ）
6	新規	高等学校「情報」の採用選考実施 →高校「情報」の志願者については、「情報」の普通免許状に加え、他の教科の高等学校教諭普通免許状を有することを受験資格とする
7	第1次選考 筆記試験：記述式	マークシート方式に変更 →全ての記述試験をマークシートに変更することから、今まで実施していた小論文での試験は廃止する

No.	今年度実施	来年度実施
8	第1次選考 筆記試験：教職教養 →教育法規，教育史，教育心理学等を出題	<u>教職教養を「教養」とし，出題内容を変更</u> →今までの教育法規等に加え，現代が抱える教育問題や現場で必要な知識，主要5教科に関わる知識等幅広く出題
9	第1次選考 実技試験を実施する教科あり →実技試験のある教科については，東京会場での実施不可	<u>実技試験は全て第2次選考で実施</u> →全ての学校種，教科・科目について第1次選考を東京会場で実施可
10	第1次選考 実技試験：小学校水泳	<u>自己申告制に変更</u> →小学校の「水泳」の実技を廃止し，出願の際に泳力について自己申告制とする
11	第2次選考 模擬授業： 模擬授業の課題選択不可 指導案作成(50分) + 模擬授業(30分)	第2次選考 模擬授業： 県教委が示す複数の課題から <u>自ら課題選択可</u> 模擬授業(30分) (<u>指導案作成無し</u>)

第3号議案

平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について

平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針を別紙のとおり定める。

平成28年11月16日提出

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁

(別 紙)

平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 各高等学校長は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあっては調査書等作成のための委員会を、高等学校にあっては選抜のための委員会を設置するものとする。

2 前期選抜

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、前期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類、学校独自検査の結果及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。各高等学校は、学校独自検査及び学力検査の満点及び総点を適宜定める。
- (2) 学校独自検査
学校独自検査は、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文等の中から一つ以上実施する。
- (3) 学力検査
ア 学力検査の実施教科は、国語、数学及び英語とする。
イ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

3 後期選抜

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、後期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。
この場合、次のア～ウのいずれか一つ又は複数を実施して、その結果を選抜の資料に加えることができる。
ア 面接
イ 実技（体育及び美術に関する学科の場合）
ウ 一部教科の得点を倍にする等の傾斜配点
また、必要に応じその他の資料を加えることができる。

(2) 学力検査

ア 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。

イ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

5 連携型中高一貫教育に関する選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校は、連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とした選抜を実施する。選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査（前期選抜に準じる。）、面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

6 社会人特別選抜

定時制課程の学科においては、前期選抜において社会人を対象とした選抜を行うことができる。当該高等学校長は、学力検査について、弾力的に対応することができるものとする。

7 通信制課程に関する選抜

当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができるものとする。

(参 考)

平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜日程

前期選抜・連携型中高一貫教育に関する選抜

実 施 日 平成30年 1月31日 (水)

合格発表日 平成30年 2月 8日 (木)

後期選抜

実 施 日 平成30年 3月 6日 (火)

合格発表日 平成30年 3月14日 (水)

(参考)

平成30年度公立高等学校入学者選抜日程

○:実施日, △:合格発表日, 後期出願:出願期間

	平成29年	平成30年
金	1月20 (前期出願10~13)	1月19 (前期出願9~12)
土	21	20
日	22	21
月	23	22
火	24	23
水	25	24
木	26	25
金	27	26
土	28	27
日	29	28
月	30	29
火	31	30
水	2月1 ○前期選抜	2月1 ○前期選抜
木	2	2
金	3	3
土	4	4
日	5 日	5 日
月	6	6
火	7	7
水	8	8
木	9	9
金	10 △前期選抜	10 △前期選抜
土	11	11
日	12	12
月	13	13
火	14 日	14 日
水	15	15
木	16	16
金	17	17
土	18	18
日	19	19
月	20 (後期出願)	20 (後期出願)
火	21 (後期出願)	21 (後期出願)
水	22 (後期出願)	22 (後期出願)
木	23 (後期出願)	23 (後期出願)
金	24	24
土	25	25
日	26	26
月	27	27
火	28	28
水	3月1 (卒業式)	3月1 (卒業式)
木	2	2
金	3	3
土	4	4
日	5	5
月	6	6 ○後期選抜
火	7	7
水	8	8
木	9	9
金	10	10
土	11 鎮魂の日	11 鎮魂の日
日	12	12
月	13	13
火	14	14
水	15 △後期選抜	15 △後期選抜
木	16	16
金	17	17
土	18	18
日	19	19
月	20	20
火	21	21
水	22	22
木	23	23
金	24	24
土	25	25
日	26	26
月	27	27
火	28	28
水	29	29
木	30	30
金	31	31

市町村立小中学校における在校時間の状況について

～ 平成27年度調査 ～

1 趣 旨

県立学校においては、教職員の健康管理を図るため「宮城県教育委員会における職員に対する健康管理対策実施要領」を策定し、平成24年9月から正規の勤務時間外における在校時間等の把握に努めている。

健康管理対策実施要領で定める基準（月80時間を超えた者、月45時間超を3月以上連続した者、所属長が健康への配慮が必要と認める者）に該当し、希望する者については、指定医師による面接を実施し、自己の健康管理につなげている。

市町村立小中学校の教職員の正規の勤務時間外における在校時間の把握については、各市町村教育委員会が、それぞれ独自の方法で行っているが、県教育委員会としても、健康管理対策の参考とするため、県内全35市町村教育委員会の公立小中学校において、月80時間を超える者の割合等について把握することとしたものである。

なお、この報告は、各市町村教育委員会が共通で回答できる項目を取りまとめたものである。

2 正規の勤務時間外における月80時間超報告者について

(1) 全体報告者数

市町村立小中学校(平成27年度)

(単位:校, 人, %)

校種	学校数等	学校数	教職員数	報告者数 (実人数)	教職員に 対する割合
小学校		388	7,988	542	6.8
中学校		200	4,859	2,211	45.5
合計		588	12,847	2,753	21.4

※参考 県立学校(平成27年度)

(単位:校, 人, %)

校種	学校数等	学校数	教職員数	報告者数 (実人数)	教職員に 対する割合
県立高等学校		70	4,055	1,554	38.3
県立中学校		2	41	22	53.7
県立特別支援学校		18	1,644	36	2.2
合計		90	5,740	1,612	28.1

(2) 月別報告者数

平成27年度(平成27年4月～平成28年3月)

(単位:人, %)

校種	教職員数等 教職員数	H27.4		H27.5		H27.6		H27.7		H27.8		H27.9		H27.10	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
小学校	7,988	250	3.1	136	1.7	351	4.4	103	1.3	7	0.1	164	2.1	185	2.3
中学校	4,859	1,280	26.3	1,706	35.1	1,237	25.5	1,015	20.9	181	3.7	1,277	26.3	1,349	27.8
合計	12,847	1,530	11.9	1,842	14.3	1,588	12.4	1,118	8.7	188	1.5	1,441	11.2	1,534	11.9

校種	教職員数等 教職員数	H27.11		H27.12		H28.1		H28.2		H28.3		合計	月平均 人数
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	延べ人数	
小学校	7,988	119	1.5	57	0.7	29	0.4	142	1.8	201	2.5	1,744	145
中学校	4,859	1,143	23.5	625	12.9	504	10.4	886	18.2	932	19.2	12,135	1,011
合計	12,847	1,262	9.8	682	5.3	533	4.1	1,028	8	1,133	8.8	13,879	1,156

 : 最多人数

※ 上の表の各月報告者の人数は実人数だが、年合計では重複する教職員がいるため延べ人数となり、(1)全体報告者数とは異なる。

※ 割合…職員数(校種別)に対する割合、小数点第二位四捨五入

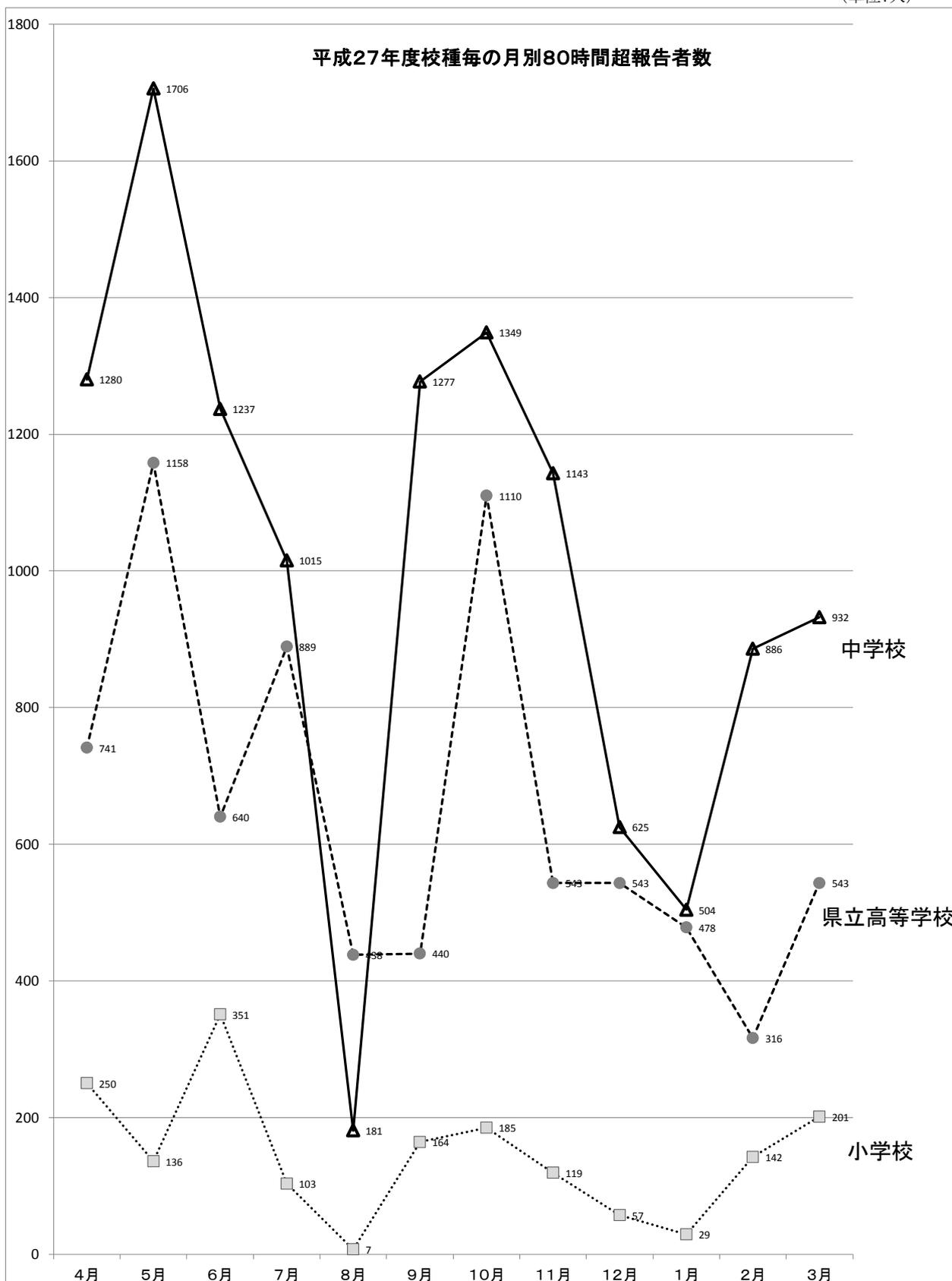
※ 参考 県立学校の最多月(平成27年度)

(単位:人, %)

校種	教職員数等 教職員数	H27.4		H27.5	
		人数	割合	人数	割合
県立高等学校	4,055	—	—	1,158	28.6
県立中学校	41	—	—	19	46.3
県立特別支援学校	1,644	27	1.6	—	—

(3) 校種毎の月別80時間超報告者数の傾向

(単位:人)



(4) 校種別従事内容

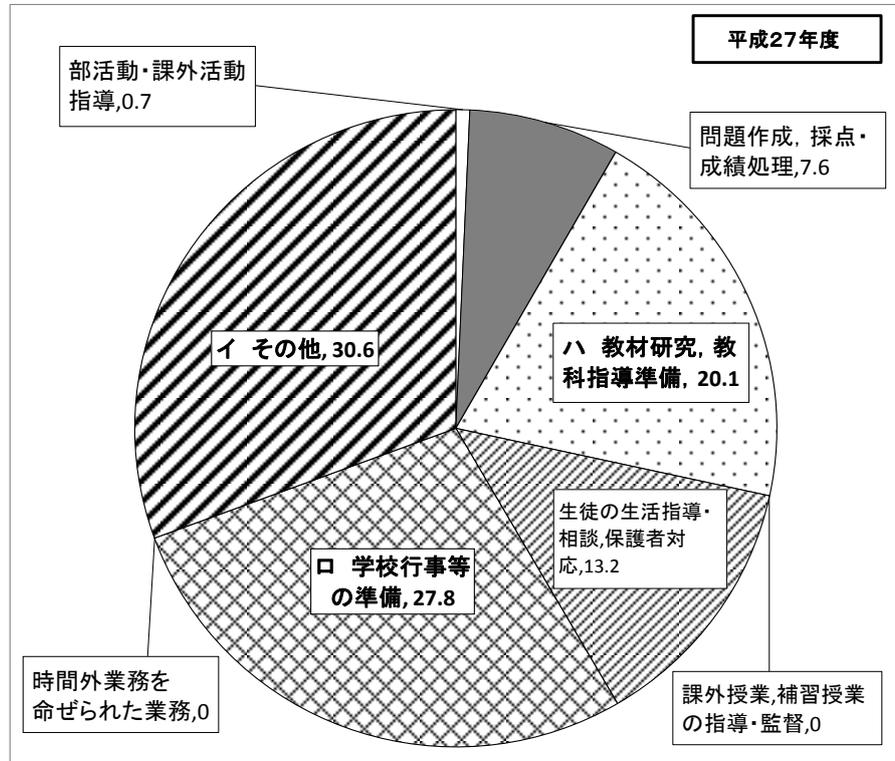
【小学校】

①平成27年度
(平成27年4月～平成28年3月)
※複数回答あり (単位%)

従事内容	年割合
部活動・課外活動指導	0.7
問題作成, 採点・成績処理	7.6
教材研究, 教科指導等準備	20.1
課外授業, 補習授業等の指導・監督	0
生徒の生活指導・相談, 保護者対応	13.2
学校行事等の準備	27.8
時間外業務を命ぜられた業務	0
その他	30.6
計	100.0

■その他の従事内容

校務処理, 地域対応業務, PTA対応業務, 保護者対応, 公開研究会準備 他



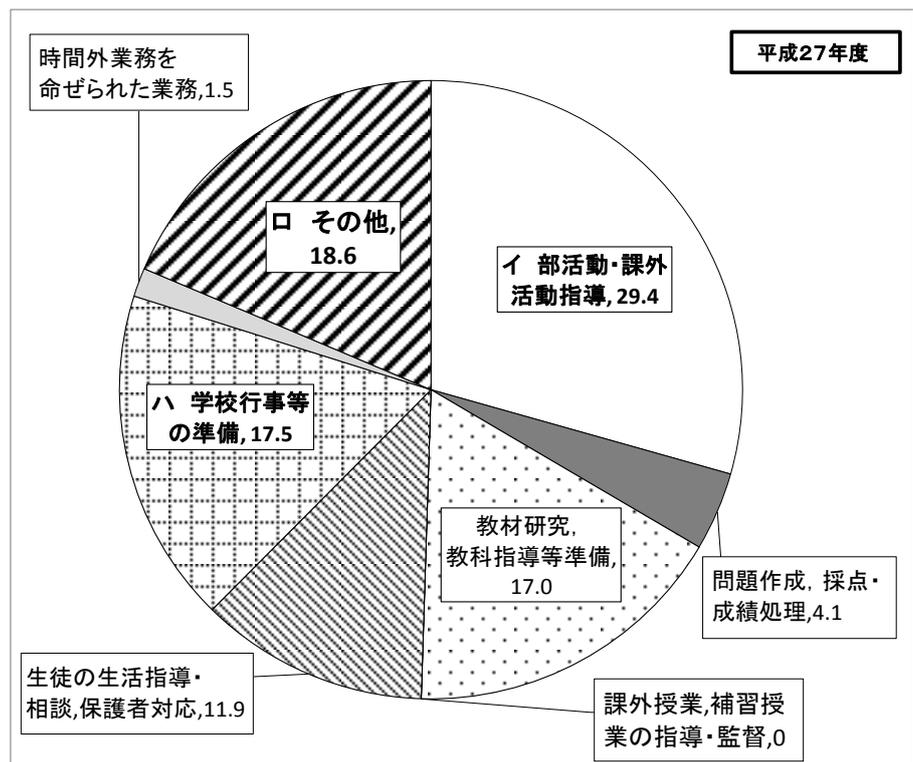
【中学校】

①平成27年度
(平成27年4月～平成28年3月)
※複数回答あり (単位%)

従事内容	年割合
部活動・課外活動指導	29.4
問題作成, 採点・成績処理	4.1
教材研究, 教科指導等準備	17.0
課外授業, 補習授業等の指導・監督	0
生徒の生活指導・相談, 保護者対応	11.9
学校行事等の準備	17.5
時間外業務を命ぜられた業務	1.5
その他	18.6
計	100.0

■その他の従事内容

校務処理業務



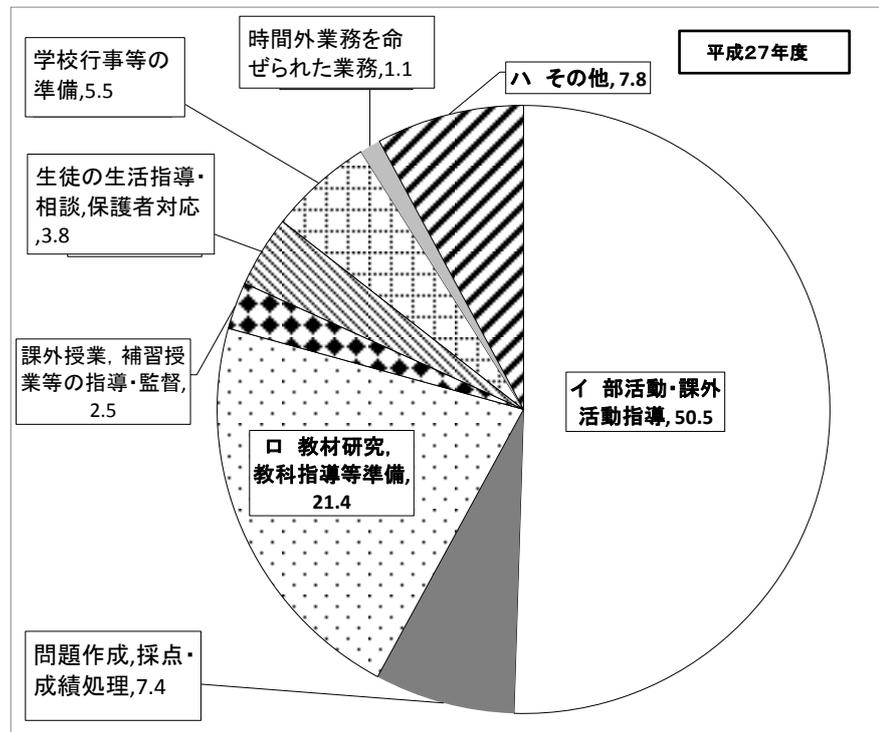
※参考 【県立高等学校】

①平成27年度
(平成27年4月～平成28年3月)
※複数回答あり (単位%)

従事内容	年割合
部活動・課外活動指導	50.5
問題作成, 採点・成績処理	7.4
教材研究, 教科指導等準備	21.4
課外授業, 補習授業等の指導・監督	2.5
生徒の生活指導・相談, 保護者対応	3.8
学校行事等の準備	5.5
時間外業務を命ぜられた業務	1.1
その他	7.8
計	100.0

■ その他の従事内容

進路指導, 校務分掌業務, 入試業務, 高文連, 教育研究会 他



3 在校時間縮減に向けた主な取組状況

(1) 小学校・中学校共通

○会議	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の精選 ・職員会議資料の事前配付による会議時間の縮減 ・会議開催時期の精選(学年末・長期休業中は行わない等) ・事前の議題調整(担当部署の打ち合わせ・運営委員会等) ・各種会議資料に進行時刻を記載
○校務分掌	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の見直し(担当の複数配置やチーム制による負担の軽減) ・業務量の平準化(特に教頭, 主幹教諭, 主任間の調整など)
○授業等教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・(小学校)高学年における教科担任制, 専科制の実施 ・地域資源を生かしたボランティアの活用 ・児童・保護者に配布する文書・チラシの精選 ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等専門職員の活用による, 教員の負担軽減 ・各種記録の簡略化(箇条書きを励行:授業指導記録や生徒指導の記録等) ・職場体験の長期休業中の実施 ・学校行事のねらいの明確化(事前準備の縮減)
○事務処理の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理のICT化(公務支援システム・職員LAN・共有フォルダー等の活用) ・事務整理期間・事務整理日を設定 ・各種資料の共有
○管理職からの指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日(名称:No残業デー, フレッシュデー) ・最終退勤時刻の設定 ・教職員の意識改革(ワークライフバランス等) ・退勤が遅くなる場合の事前申請 ・校務の進捗状況を把握 ・在校時間が著しく多い教職員に対しての面接指導 ・長時間勤務の弊害・過労による疾病について職員会議等での指導 ・部活動は, 土日のうちどちらかを休養日とするように, 年度当初の職員会議で指示 ・「タイムマネジメント」について指導・助言 ・年次有給休暇の計画的な取得を推進
○教育委員会からの指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間の記録による, 自己管理の意識化 ・業務の精選及び軽減を管理職に対して指導 ・部活動時間縮減の推進

(2) 中学校

○部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・休養日の設定と厳守: ノ一部活動の日の設定 年間を通じた平日の部活動休止日の設定 長期休業中の土日の部活動禁止 土日の部活動は, 基本的にいずれか活動禁止 ・複数顧問制の導入 ・外部指導者の活用(導入) ・参加する大会の精選
------	--

平成29年度宮城県・仙台市公立学校教員採用候補者選考の結果について

1 実施概況

(1) 第1次選考

実施日 平成28年7月23日（土）、7月24日（日）
 会場 筆記試験・・・高校4校，東京海洋大学，
 実技試験・・・小学校4校，高校1校

(2) 第2次選考

実施日 平成28年9月16日（金）・17日（土），19日（月）・20日（火）
 会場 宮城県総合教育センター，美田園高等学校，仙台市教育センター

	出願者数	受験者数（受験率）	1合格者数	2次受験者数（受験率）	名簿登載者数
29年度	3,354	3,062 (91.3%)	1,124	1,101 (98.0%)	569
28年度	3,656	3,335 (91.2%)	1,278	1,255 (98.2%)	651
対前年比	-302	-273 (0.1)	-154	-154 (-0.2)	-82

2 今年度選考試験の特徴

- 名簿登載者数は569名（昨年度651名，一昨年度657名）
- 名簿登載者数に占める他県現職の割合は7.6%，講師経験者の割合は36.0%
 （昨年度比：それぞれ1.8ポイント低，8.5ポイント低）
- 新卒者の名簿登載者の割合が45.2%（昨年度比：11.2ポイント高）
- 名簿登載者の平均年齢26.1歳（昨年度比：△1歳）
- 名簿登載者の男女比は男46.9%女53.1%（昨年度比：女性の割合0.3ポイント増）
- 障害者特別選考で1名を採用
- 大学院進学・在籍者の名簿登載猶予予定者は16名（昨年度17名）

3 今後の取組

(1) 新規採用予定者情報交換会の開催

平成29年4月の新規採用予定者に対し，教員としての心構えや，採用までの過ごし方について理解を深めるための機会として，情報交換会を開催する。

期日 平成28年12月27日（火）
 内容 全体会（講話），分科会（校種別情報交換会）
 会場 宮城県総合教育センター

(2) 平成30年度採用選考説明会の開催

- ・12/17（土）仙台会場（県庁講堂），12/17（水）東京会場（東京海洋大学）でそれぞれHP等で募集をし，説明会を開催する。
- ・県内8大学および北海道地区1大学・東北地区9大学・関東圏の15大学において，教員採用選考に関する説明会を実施する。

平成27年度における児童生徒の問題行動等に関する調査（宮城県分）の結果について

◇文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」による〔平成28年10月27日公表〕

1 調査の趣旨

児童生徒の問題行動等について、全国の状況を調査・分析することにより、教育現場における生徒指導上の取組のより一層の充実に資するとともに、本調査を通じて、実態把握を行うことにより、児童生徒の問題行動の未然防止、早期発見・早期対応につなげていくものとする。

2 調査対象期間

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

3 調査対象（平成27年5月1日現在）

- 仙台市を含む国公立小・中学校・高等学校・特別支援学校及び中等教育学校前期課程在籍児童生徒
- 小学校 404校（児童数 119,806人）
- 中学校 215校（生徒数 64,320人）
- 高等学校 106校（生徒数 63,374人）
- 特別支援学校 24校（児童生徒数 2,540人）※いじめのみ

4 調査結果の概要

（1）暴力行為

- 小学校は、発生件数、発生学校数、加害児童数ともに増加している。特に、1、2学年の加害児童数が前年度比約3倍に増加しており、全国の傾向と同様、低学年での増加が目立つ。また、同一児童による複数回の対教師、生徒間暴力が見られる。
- 中学校は、器物損壊、生徒間暴力、対教師暴力の減少により、発生件数、加害生徒数ともに減少している。
- 小・中学校で、都市部と郡部、沿岸部と内陸部等の地域的な特徴は認められない。
- 高等学校は、器物損壊の増加により、発生件数が増加している。

① 発生件数・発生学校数・加害児童生徒数

種別	小学校			中学校			高等学校		
	H27	H26	前年度比較	H27	H26	前年度比較	H27	H26	前年度比較
発生件数(件)	389	142	+247	584	710	-126	129	116	+13
発生学校数(校)	83	55	+28	111	110	+1	56	50	+6
加害児童生徒数(人)	254	121	+133	644	665	-21	139	135	+4

② 形態別発生状況

種別	小学校			中学校			高等学校		
	H27	H26	前年度比較	H27	H26	前年度比較	H27	H26	前年度比較
対教師暴力(件)	140	21	+119	59	79	-20	5	13	-8
生徒間暴力(件)	219	91	+128	363	408	-45	83	83	±0
対人暴力(件)	4	1	+3	19	8	+11	5	6	-1
器物損壊(件)	26	29	-3	143	215	-72	36	14	+22
計	389	142	+247	584	710	-126	129	116	+13

(2) いじめ

① いじめ認知件数・解消率・認知校数

○ いずれの校種でも積極的な認知に向けて取り組んでおり、アンケート調査を年4回以上実施している小学校は58.9%（全国31.4%）、中学校は70.2%（全国39.0%）高等学校は37.7%（全国10.6%）で、全国値を大きく上回っている。

○ 前年度と比較し、全ての校種で認知校数が増加している。

○ 小・中学校で、都市部と郡部、沿岸部と内陸部等の地域的な特徴は認められない。

種別	小学校		
	H27	H26	前年度比較
認知件数 (件)	14,613	14,545	+68
解消率 (%)	99.6	99.7	-0.1
認知校数 (校)	285	263	+22

種別	中学校		
	H27	H26	前年度比較
認知件数 (件)	2,782	2,804	-22
解消率 (%)	98.7	98.9	-0.2
認知校数 (校)	176	166	+10

種別	高等学校		
	H27	H26	前年度比較
認知件数 (件)	303	274	+29
解消率 (%)	95.4	93.1	+2.3
認知校数 (校)	73	67	+6

種別	特別支援学校		
	H27	H26	前年度比較
認知件数 (件)	10	4	+6
解消率 (%)	100	100	±0
認知校数 (校)	5	3	+2

② いじめの態様

○ 全ての校種で「冷やかしゃからかい等」が最も多く、次いで小学校では「軽くぶつかられたり、叩かれたり等」、中学校、特別支援学校では「仲間はずれ、集団による無視」、高等学校では「パソコンや携帯電話等で誹謗中傷」が多かった。

〈小学校〉

	種別	H27		H26		前年度比較	
		(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
1	冷やかしゃからかい等	8,848	60.5	7,900	54.4	+948	+6.1
2	軽くぶつかられたり、叩かれたり等	4,559	31.2	4,612	31.7	-53	-0.5
3	仲間はずれ、集団による無視	3,448	23.6	3,750	25.8	-302	-2.2
4	品物をかくされたり壊されたり等	1,615	11.1	2,039	14.0	-424	-2.9
5	ひどくぶつかられたり、叩かれたり等	1,315	9.0	1,214	8.3	+101	+0.7

〈中学校〉

	種別	H27		H26		前年度比較	
		(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
1	冷やかしゃからかい等	2,017	72.5	1,982	70.7	+35	+1.8
2	仲間はずれ、集団による無視	502	18.0	530	18.9	-28	-0.9
3	軽くぶつかられたり、叩かれたり等	478	17.2	566	20.2	-88	-3.0
4	嫌なことや恥ずかしいこと等	156	5.6	137	4.9	+19	+0.7
5	パソコンや携帯電話等で誹謗中傷	154	5.5	247	8.8	-93	-3.3

〈高等学校〉

	種別	H27		H26		前年度比較	
		(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
1	冷やかしゃからかい等	188	62.0	161	58.8	+27	+3.2
2	パソコンや携帯電話等で誹謗中傷	38	12.5	43	15.7	-5	-3.2
3	仲間はずれ、集団による無視	35	11.6	56	20.4	-21	-8.8
4	軽くぶつかられたり、叩かれたり等	32	10.6	21	7.7	+11	+2.9

〈特別支援学校〉

	種別	H27		H26		前年度比較	
		(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
1	冷やかしゃからかい等	8	80.0	3	75.0	+5	+5.0
2	仲間はずれ、集団による無視	3	30.0	1	25.0	+2	+5.0
	軽くぶつかられたり、叩かれたり等	3	30.0	0	0	+3	+30.0

(3) 小・中学校の長期欠席（不登校等）

- 不登校出現率は、小学校0.47%（全国0.42%）、中学校3.53%（全国2.83%）となり、依然として高水準で推移している。
- 不登校児童生徒の中で、今回から新たに集計した90日以上欠席者の割合は57.0%と、全国とほぼ同じであった。
- 出席日数0日の児童生徒は、不登校児童生徒の3.0%（全国3.5%）である。
- 小・中学校で、都市部と郡部、沿岸部と内陸部等の地域的な特徴は認められない。
- 不登校の要因を「本人に係る要因」で見ると、小・中学校とも「『不安』の傾向がある」が最も多く、次いで「『無気力』の傾向がある」が多かった。「不安」の傾向がある不登校児童生徒のうち、この理由として、小学校では「家庭に係る状況」「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が多く、中学校では「いじめを除く友人関係をめぐる問題」「家庭に係る状況」が多かった。

※不登校出現率：在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合

① 理由別長期欠席者数

〈小学校〉

(人)

区分	在籍児童数 ①	病気 ②	経済的理由 ③	不登校 ④	その他 ⑤	うち、 不登校の 要因を 含む	長期欠席 総数	不登校 出現率 (%) ④÷①	再登校率 (%)
H27	119,806	361	1	567	114	30	1,043	0.47	27.5
H26	121,076	461	0	501	128	—	1,090	0.41	33.1
前年度比較	-1,270	-100	+1	+66	-14	—	-47	+0.06	-5.6

〈中学校〉

(人)

区分	在籍生徒数 ①	病気 ②	経済的理由 ③	不登校 ④	その他 ⑤	うち、 不登校の 要因を 含む	長期欠席 総数	不登校 出現率 (%) ④÷①	再登校率 (%)
H27	64,320	331	0	2,272	116	47	2,719	3.53	29.7
H26	65,039	308	1	2,190	129	—	2,628	3.37	30.5
前年度比較	-719	+23	-1	+82	-13	—	+91	+0.16	-0.8

② 不登校の内訳

(人)

区分	欠席日数30～90日の者		欠席日数90日以上で 出席日数11日以上の方		欠席日数90日以上で 出席日数1～10日の者		欠席日数90日以上で 出席日数0日の者		不登校 児童生徒数
小学校	332	58.6%	205	36.2%	20	3.5%	10	1.8%	567
中学校	890	39.2%	1,161	51.1%	145	6.4%	76	3.3%	2,272
合計	1,222	43.0%	1,366	48.1%	165	5.8%	86	3.0%	2,839

③ 不登校の要因

(人)

本人に係る要因	小学校	中学校
「不安」の傾向がある	199	786
「無気力」の傾向がある	161	665
「学校における人間関係」に課題を抱えている	87	574
「あそび・非行」の傾向がある	3	92
「その他」（理由がはっきりしない等）	117	155

(4) 高等学校の不登校・中途退学

- 高等学校の不登校出現率は2.19%（全国1.49%）であり、不登校の要因は「『無気力』の傾向がある」等が多い。
- 高等学校の中途退学率は1.6%（全国1.4%）であり、中途退学の事由は「学校生活・学業不適応」等が多い。

① 不登校

〈在籍学校数・不登校生徒数・不登校出現率・再登校率〉

種別	校種	高等学校		
		H27	H26	前年度比較
在籍学校数(校)		98	100	-2
不登校生徒数(人)		1,353	1,258	+95
不登校出現率(%)		2.19	2.03	+0.16
再登校率(%)	県	33.9	40.2	-6.3
	全国	39.2	35.7	+3.5

〈不登校の要因〉

(人)

本人に係る要因	高等学校
「無気力」の傾向がある	474
「不安」の傾向がある	395
「学校における人間関係」に課題を抱えている	205
「あそび・非行」の傾向がある	173
「その他」(理由がはっきりしない等)	106

② 中途退学

〈中途退学者数及び中途退学率〉

	高等学校		
	H27	H26	前年度比較
中途退学者(人)	1,040	1,136	-96
中途退学率(%)	1.6	1.8	-0.2

〈事由別中途退学者数の構成比〉

		高等学校		
		H27	H26	前年度比較
1	学校生活・学業不適応	36.2	32.0	+4.2
2	進路変更	28.4	32.2	-3.8

5 県教委としての対応

今回の調査結果から、本県においては、依然として不登校児童生徒が多い状況が続いていることが明確になった。また、小学校の低学年で暴力行為が増加傾向にあることも大きな課題と捉えている。

これらの課題については、困難化や重篤化をさせないための初期対応の重要性、学校や家庭を外から支える仕組みの必要性を踏まえ、今年度から県教委に「心のケア・いじめ・不登校等対策支援チーム」を設置し、相談窓口の拡充を図るとともに、東部教育事務所内に「児童生徒の心のサポート班」を設置し、学校や家庭への直接的な支援等を行っている。また、8つの市町に対して「みやぎ子どもの心のケアハウス事業」での取組支援を行い、市町のいじめや不登校等への対策を支援している。

今後は、本調査の結果をさらに分析し、市町村教育委員会やPTA、保健福祉部局等と連携し、現在進めているこれらの取組の充実を図っていく。

また、以下のような重点的な取組を一層推進する。

(1) いじめ・不登校を生まない学校づくり

- ・ 「子供の声を聴き・ほめ・認める授業づくり」「子供が互いに認め合う学級づくり」
- ・ 家庭や地域と連携し、自己有用感を高める「志教育」の一層の推進

(2) 学校の組織的・継続的な指導體制の整備を促すとともに直接的な支援を強化

- ・ 各学校における「いじめ・不登校対策担当者」を核とした組織的対応の強化
- ・ 初期段階の的確なアセスメント(見立て)への専門家の活用及び関係機関との連携
(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健福祉部局、児童生徒の心のサポート班等)
- ・ 児童生徒一人一人の背景等を把握した個別のケア(支援計画等活用)の推進

(3) 幼児期を含めた校種間の緊密な連携

- ・ 申し送り個票等を活用した、接続期の確実な引継(幼児、児童生徒)
- ・ 平時の校種を越えた情報交換等
- ・ 幼児、児童生徒、教員同士の交流活動の工夫等

問題行動等への対応

<重点>

- (1) いじめ、不登校を生まない学校づくり
- (2) 学校の組織的・継続的な指導体制の整備を促すとともに直接的な支援を強化
- (3) 幼児期を含めた校種間の緊密な連携

心のケア・いじめ・不登校等対策支援チームの設置 (教育庁内関係全課室公所に相談窓口を設置)

心のケア・いじめ・不登校等対策プロジェクトチーム (義務教育課内に設置)

- 心のケア、いじめ、不登校等対策を総合的に企画・調整
- 相談窓口の運営、現場訪問に係る総合調整

児童生徒の心のサポート班(東部教育事務所内に設置)

- 心のケア、いじめ、不登校等に対する訪問指導及び来所相談
- 指導主事、心理職員、スクールソーシャルワーカーで班を構成

教育相談充実事業 (小・中)

スクールカウンセラーの配置

- 全公立中学校に配置
- 全市町村に広域カウンセラーを配置し全公立小学校に対応
- 児童生徒等及び保護者からの相談対応
- カウンセリングに関する教員への助言等校内教育相談体制の充実
- 要請のあった学校への緊急派遣

教育事務所専門カウンセラーの配置

- 教育事務所(地域事務所)管内の児童生徒や保護者及び教職員からの相談に対応(各教育事務所等に配置)

- 不登校児童生徒保護者対象相談会・懇談会での講話、教育相談の実施
- 緊急対応、心のケアを要する学校でのカウンセリングの実施

けやき支援員、けやきフレンドの派遣

- 適応指導教室等にけやき支援員を派遣
- 適応指導教室へのボランティア(けやきフレンド)の派遣

学校教育活動復旧支援員の配置 (市町村委託)

- 被災した児童生徒の心のケア
- 被災した学校の教職員、保護者への援助、助言等

いじめ・不登校等対策推進事業

(小・中)

- 各教育事務所に在学青少年育成員を配置し、在学青少年の実態把握、相談及び助言等を実施
- 推進校に心のケア支援員を配置し、いじめ、不登校、問題行動等に対応
- 教育庁に心のサポートアドバイザーを配置し、いじめ、不登校等の課題を抱える学校を支援
- みやぎ小・中学生いじめゼロCMコンクール
- みやぎ中学生いじめ問題を考えるフォーラム

登校支援ネットワーク事業

- 訪問指導員を配置し、不登校児童生徒及び保護者を対象とした訪問指導(相談及び学習支援)を実施
- 各教育事務所等に「地域ネットワークセンター」を設置

スクールソーシャルワーカー活用事業

- スクールソーシャルワーカーの配置(市町村委託)
- スクールソーシャルワーカースーパーバイザーの派遣

高等学校スクールカウンセラーの配置(高)

- 不登校や中退、問題行動等の対応や、生徒の精神的な安定を図る支援を行うため、県立高等学校に臨床心理士等を配置
- 生徒、保護者、教職員に対する計画的、継続的なカウンセリング
- 教育相談に関する教職員への助言・援助

ネット被害未然防止対策

- 講演会の開催とフィルタリング機能の普及促進、情報モラルの啓発
- ネットパトロールの実施

総合教育相談

- 児童生徒及び保護者等が抱えるいじめ、不登校等の問題に関する教育相談
- 「不登校・発達支援相談室」で臨床心理士等が行う面談・電話による教育相談
- 24時間子供SOSダイヤル

いじめ・不登校等対策強化事業(高)

- いじめ問題対策連絡協議会の設置・開催
- いじめ防止対策調査委員会の設置・開催
- 学校警察連絡協議会の設置・開催
- 心のケア支援員、心のサポートアドバイザーの配置
- 問題が深刻化した場合の支援チーム派遣
- 学校間や関係機関との連携

生徒指導支援事業(小・中)

- 教職員の、いじめ、暴力行為、不登校等の問題行動等に適切に対応できる資質・能力の向上
- 生徒指導主事等研修会
- 問題行動等対応研修会

問題行動等に対する実効性のある教育施策の提言

- 生徒指導上の諸問題に関する協議会

みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業(小・中)

- 東日本大震災に起因する心の問題から生じる不登校や不登校傾向及びいじめ等により、学校生活に困難を抱えるようになった児童生徒の学校復帰や自立支援を目的として市町村が行う体制整備を支援

幼・保・小連携推進事業

- 子供の発達と学びの連続性を踏まえた保育及び教育の充実

全ての児童生徒が「行きたくなる学校」づくりを目指す

○安全担当主幹教諭の配置(小・中)

○いじめ・不登校対策担当者の位置付け(小・中)

子供の声を聴き、ほめ・認める授業づくり

- 指導主事学校訪問でのいじめの話合い
- 児童生徒の主体的な取組
- 主体的・対話的で深い学びのある授業づくり

子供が互いに認め合う学級づくり



家庭

認識を共有し、共に育てる



学校

「志教育」の推進



地域

学校を支援する体制整備を充実させる

平成２７年度における宮城県長期欠席状況調査(公立小中学校)の結果について

1 調査の趣旨

平成２７年度における児童生徒の長期欠席の状況等を調査・分析することにより、本県の喫緊の課題である不登校問題改善のための実効性のある施策の立案につなげていくものとする。

2 調査対象期間

平成２７年４月１日から平成２８年３月３１日まで

3 調査対象（平成２７年５月１日現在）

(1) 児童生徒調査

- 仙台市を含む県内公立小中学校長期欠席児童生徒 3,675人
 - ・小学校 1,027人
 - ・中学校 2,648人

(2) 学校調査

- 仙台市を含む県内全公立小中学校 598校
 - ・小学校 392校
 - ・中学校 206校

4 回答方法

児童生徒調査，学校調査ともに質問紙法による学校の回答
 (児童生徒調査については，担任をしていた教師等の見立ての回答)

5 調査結果の概要

(1) 長期欠席の概要について

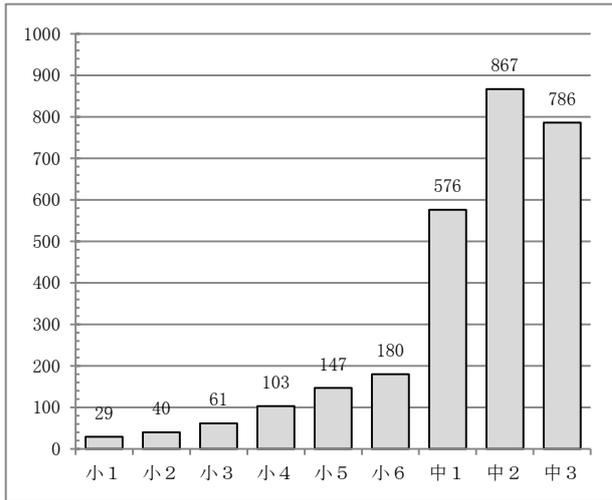
- 長期欠席児童生徒のうちの不登校は，2,789人であり，長期欠席全体の75.9%を占める。
- 小学校の不登校は560人であり，小学校長期欠席数の54.5%を占める。そのうち90日以上欠席は，229人であり，小学校の不登校数の40.9%を占める。
- 中学校の不登校は2,229人であり，中学校長期欠席数の84.2%を占める。そのうち90日以上欠席は，1,360人であり，中学校の不登校数の61.0%を占める。
- 出席日数0日の児童生徒は84人で，不登校数の3.0%を占める。小学校は8人で，小学校の不登校数の1.4%，中学校は76人で中学校の不登校数の3.4%を占める。

区分 校種		長期欠席児童生徒(人)								
		病気	経済的 理由	30日 以上 欠席	不登校			その他 不登校 要因含む	総計	
					(内数) 90日以上欠席	(内数) 出席10日 以下	(内数) 出席0日			
小学校	H27	354	0	560	229	28	8	113	25	1,027
	割合	34.5%	0%	54.5%	(小学校不登校 数の40.9%)	—	(小学校不登 校数の1.4%)	11.0%	—	—
中学校	H27	309	0	2,229	1,360	235	76	110	46	2,648
	割合	11.7%	0%	84.2%	(中学校不登校 数の61.0%)	—	(中学校不登 校数の3.4%)	4.2%	—	—
H27 小中合計		663	0	2,789	1,589	263	84	223	71	3,675
割合		18.0%	0%	75.9%	(小中不登校数 の57.0%)	—	(小中不登校 数の3.0%)	6.1%	—	—

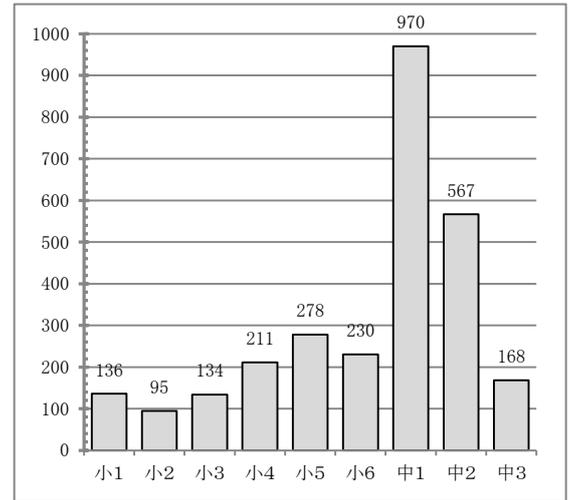
(2) 不登校児童生徒の状況について（児童生徒調査より）

- 不登校児童生徒は、中学2年生が最も多く867人、次いで中学3年生が786人となっている。
- 不登校になった学年は、中学1年からが970人であり、不登校児童生徒全体の約34.8%を占める。依然として中学1年で不登校になる生徒が多い。
- 不登校のきっかけは多様・複雑ではあるものの、小学校では、「親子関係をめぐる問題」が多く、中学校では、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が多い。
- 不登校のきっかけと震災の関連については、「あると思われる」という回答が依然として見られる。

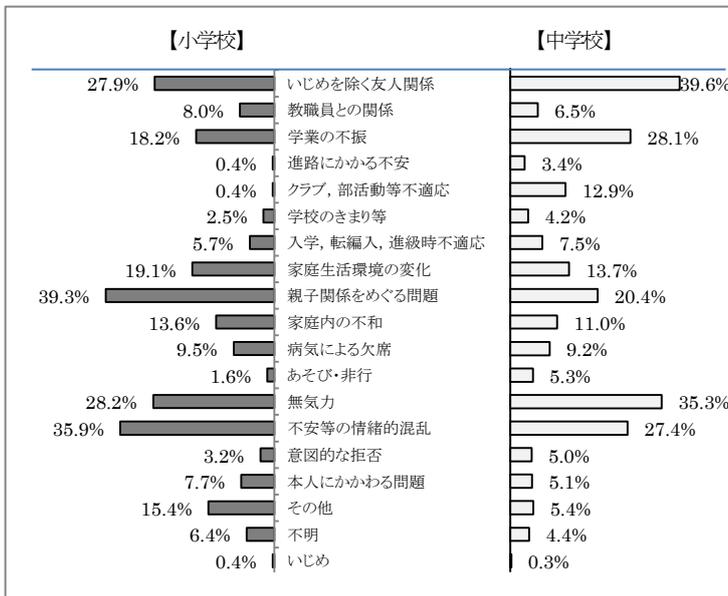
① 不登校児童生徒の学年について（単位:人）



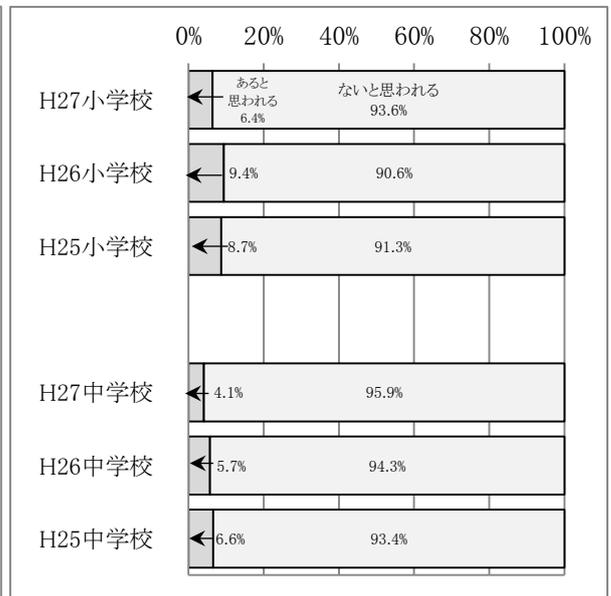
② 不登校になった学年について（単位:人）



③ 不登校のきっかけと思われるものについて（複数回答）



④ 不登校のきっかけと震災の影響の関連について

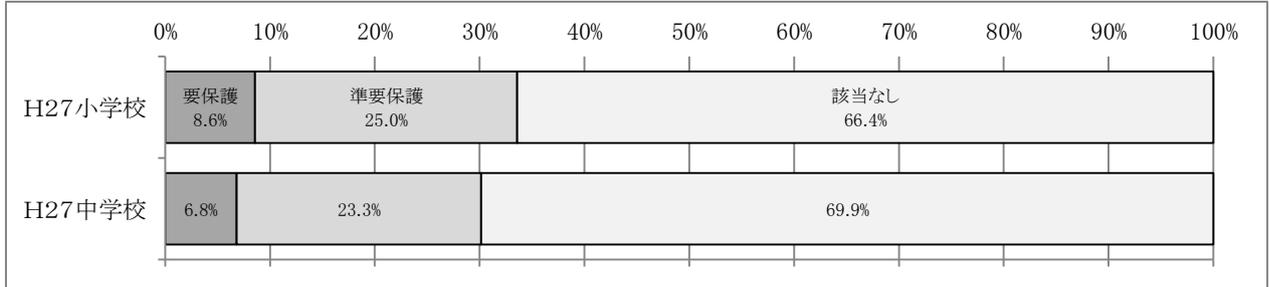


⑤ 震災の影響がないと思われる当該児童生徒の不登校が継続している要因として考えられることについて（記述回答を類型化したもの）

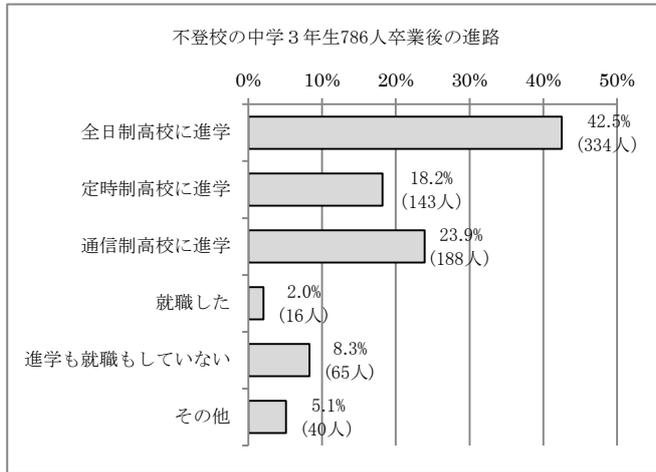
- 小学校では「兄弟姉妹が不登校になっている」「保護者の就学に対する意識が希薄」等、主に家庭に係る要因が最も多く、次いで「人間関係を構築することや人とかかわることへの不安」「失敗を繰り返すことへの不安」等、主に本人に係る要因が多い。
- 中学校では「目的意識に欠ける」「学校に行く意味を見いだせない」等、主に本人に係る要因が多く、次いで「人が集まる場所に行けない」「人とかかわることが苦手」等、主に学校生活に係る要因が多い。

- 不登校児童生徒の約3割の家庭が就学援助を受けている。
- 不登校の中学3年生の約84%が高等学校に進学しているが、8.3%に当たる65人は進学も就職もしていない。
- 進学も就職もしていない65人のうち47人に対して、卒業後、特に中学校や関係機関からの働き掛けはなされていない。

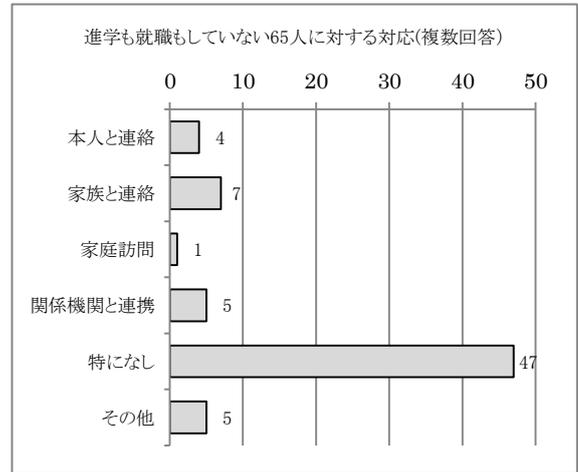
⑥ 家庭の経済の状況について



⑦ 不登校生徒の卒業後の進路について (%・人)



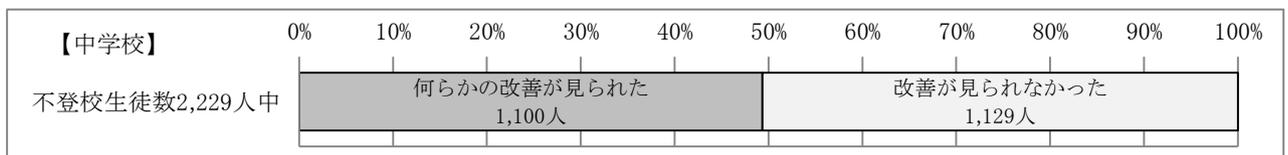
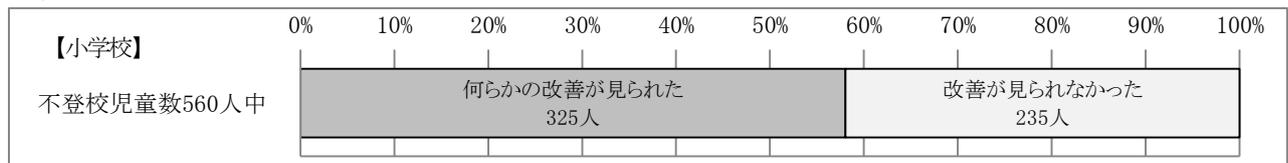
⑧ 不登校生徒の卒業後の対応について (人)



(3) 不登校児童生徒の改善状況について

- 小学校の不登校児童560人のうち、何らかの改善が見られた児童は、325人(58.0%)である。
- 中学校の不登校生徒2,229人のうち、何らかの改善が見られた生徒は1,100人(49.3%)である。
- 不登校の児童生徒の改善に有効だった働き掛けとしては、「家庭との連携づくり(訪問・電話・手紙等)」「教員の働き掛け(チーム対応・登校の促し等)」「別室・放課後登校による個別指導等」が上位を占めている。

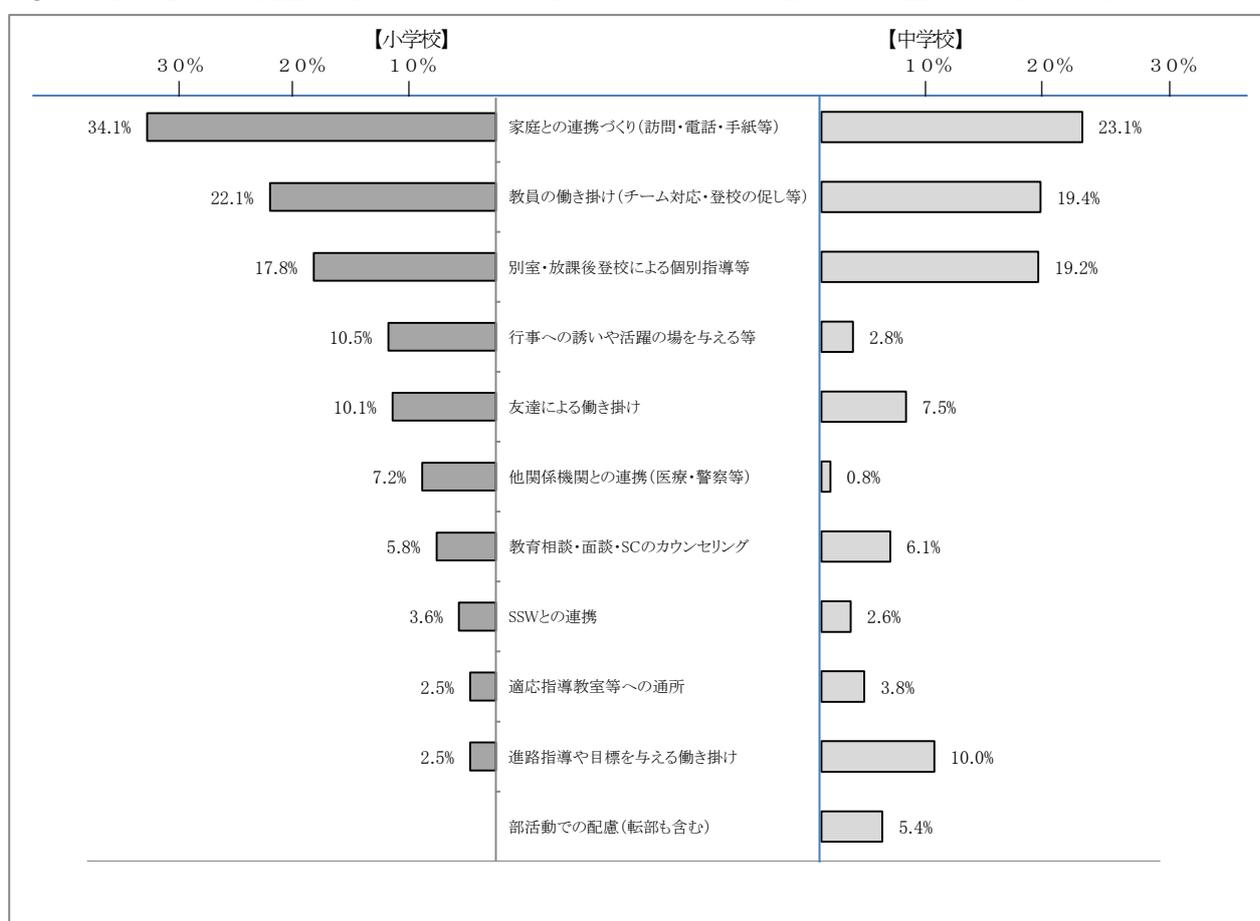
① 改善状況について



② 改善の内訳について

区 分	校 種	【小学校】		【中学校】	
		人数	割合	人数	割合
	家庭で過ごしていたが、学校に登校するようになった(別室登校含む)	245人	75.4%	784人	71.3%
	家庭で過ごしていたが、別施設登校(適応指導教室等)するようになった	18人	5.5%	134人	12.2%
	別施設登校(適応指導教室等)していたが、学校に登校するようになった(別室登校含む)	8人	2.5%	46人	4.2%
	その他 (1, 2週間に1度、親と放課後登校するようになった等)	54人	16.6%	136人	12.3%
	合 計	325人	100%	1,100人	100%

③ 改善が見られた児童生徒に有効だった働き掛けについて (記述回答を類型化したもの・複数回答)



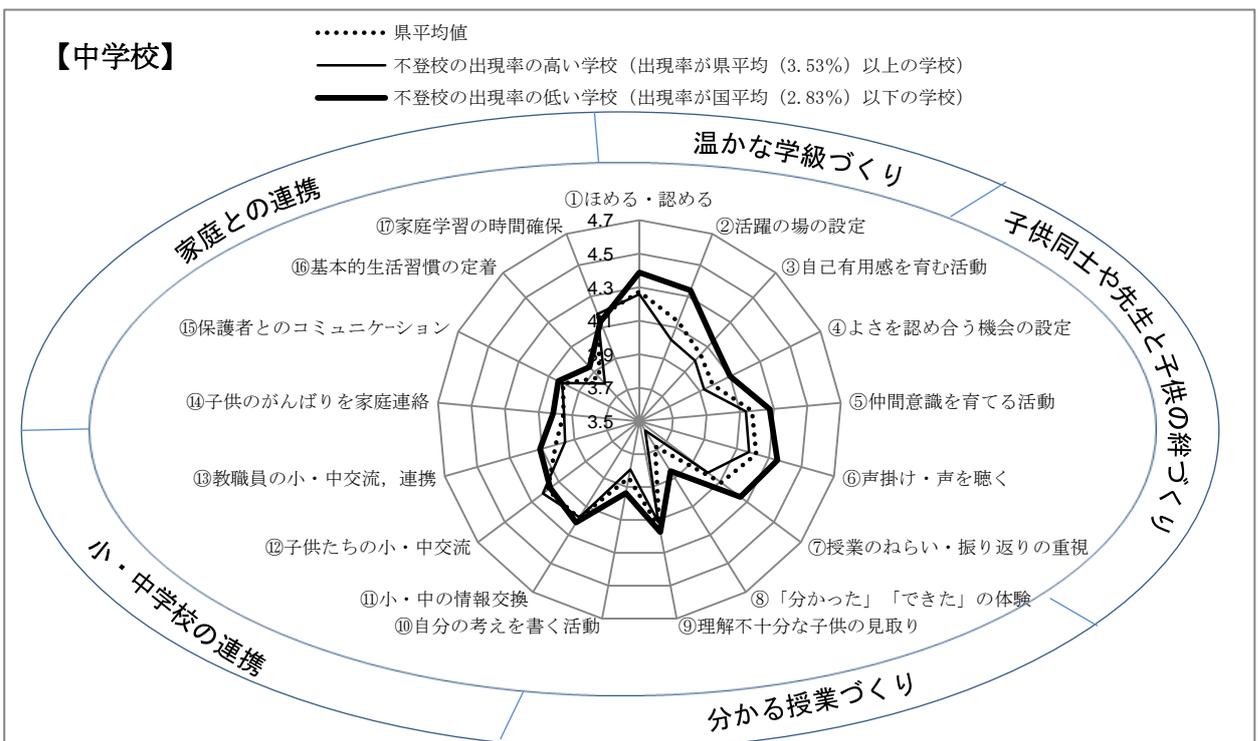
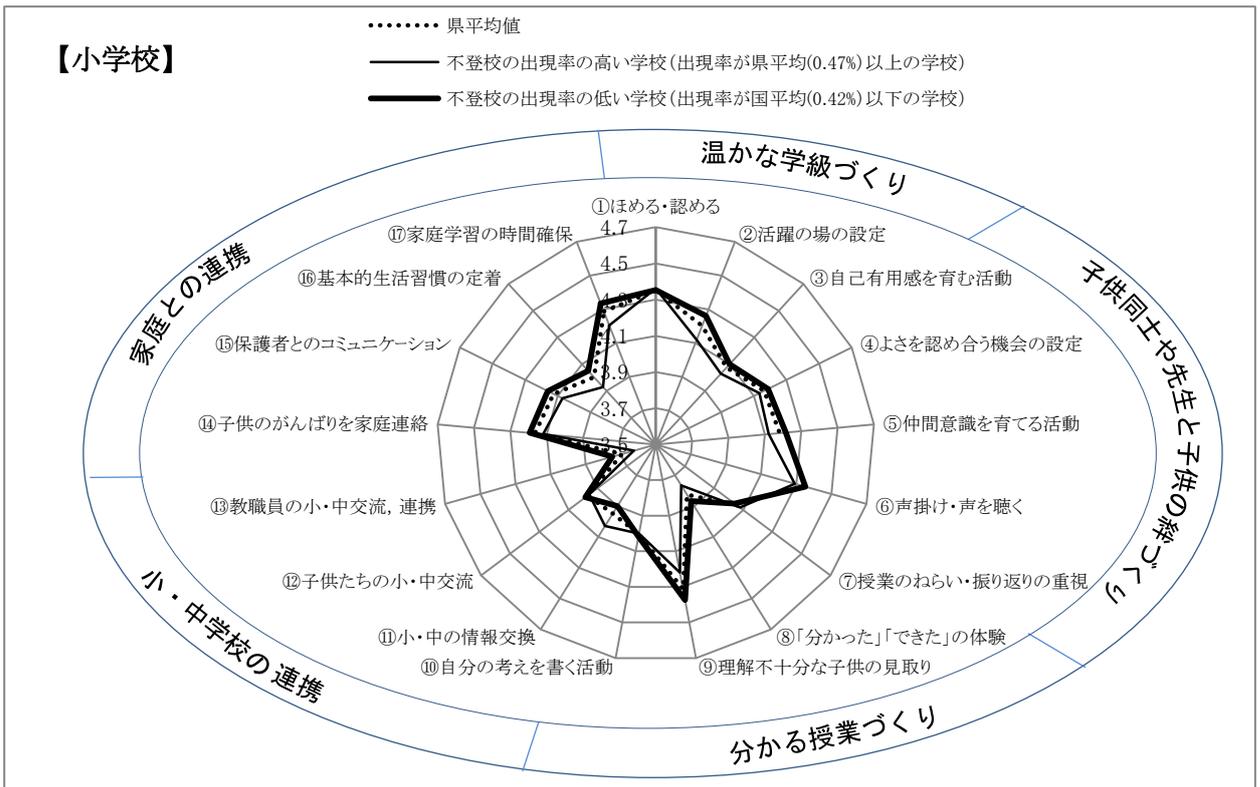
SC : スクールカウンセラー

SSW : スクールソーシャルワーカー

(4) 不登校児童生徒に対する学校の取組について (学校調査より) ※2

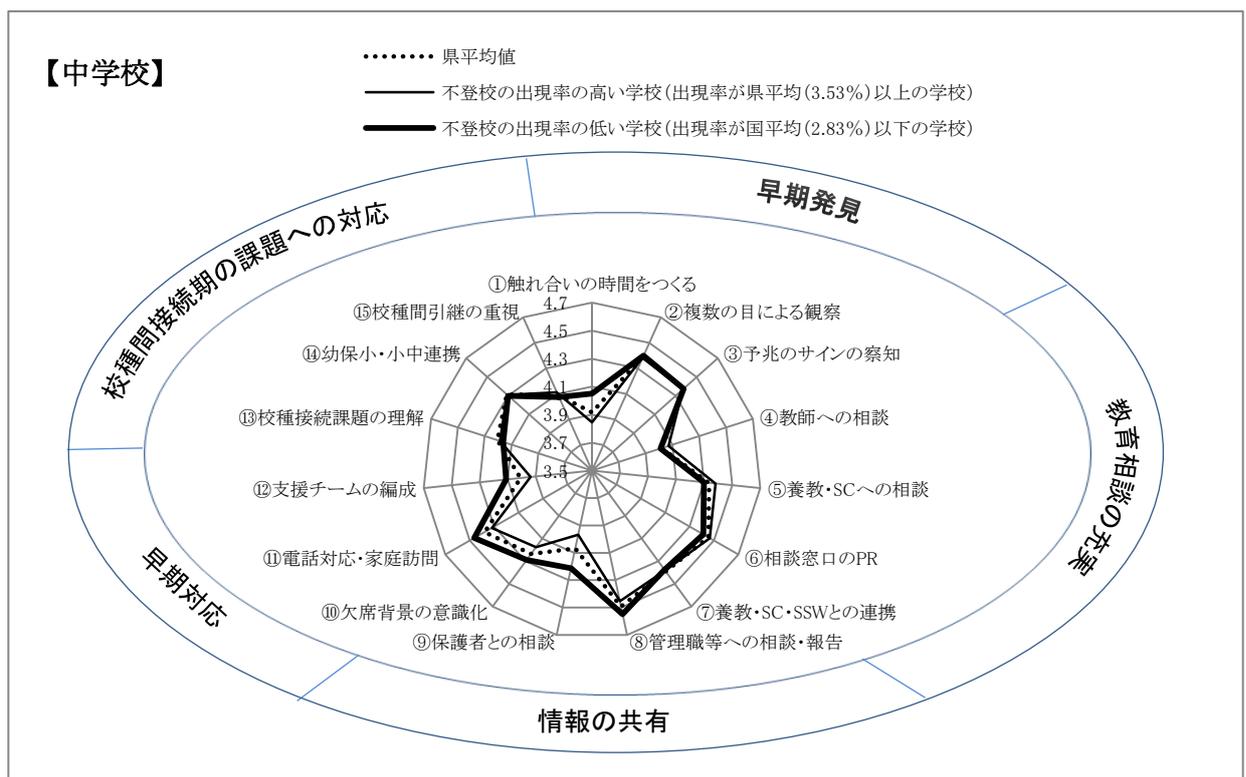
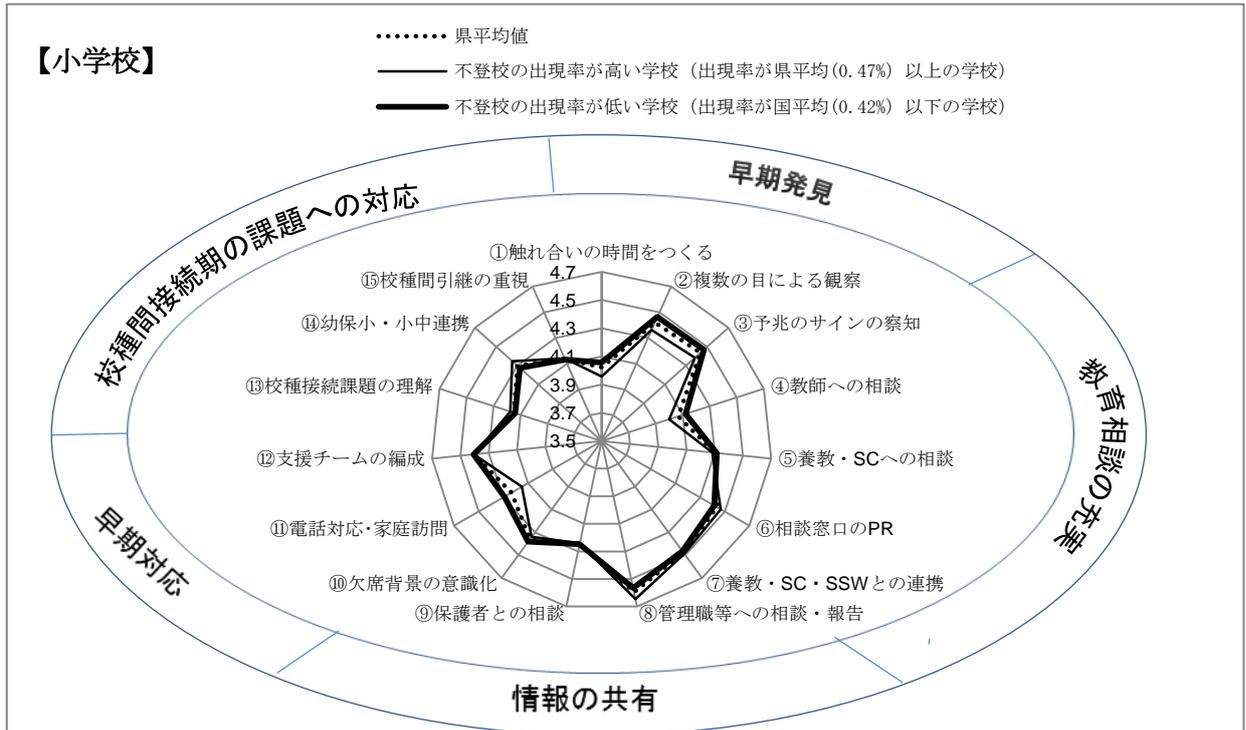
① 未然防止に係る魅力ある学校づくりへの取組について

- 小学校においては、「⑥どの子供にも積極的に声掛けし、子供の声に耳を傾けていた。」、「⑨理解の不十分な子供を見つけ、分かる授業づくりに努めていた。」の数值が高いが、一方で「⑧どの子供にも『分かった』『できた』という成功体験を味わわせていた。」、「⑬教職員による小・中学校間の交流や連携ができていた。」の数值が低い。
- 中学校においては、「①子供のよいところを積極的にほめたり、認めたりしていた。」、「⑥どの子供にも積極的に声掛けし、子供の声に耳を傾けていた。」の数值が高い一方、全般的に「⑧どの子供にも『分かった』『できた』という成功体験を味わわせていた。」の数值が低い。不登校出現率が低い中学校と高い中学校を比べると、「②一人一人の子供に活躍の場を設定していた。」、「⑧どの子供にも『分かった』『できた』という成功体験を味わわせていた。」等に差が見られる。



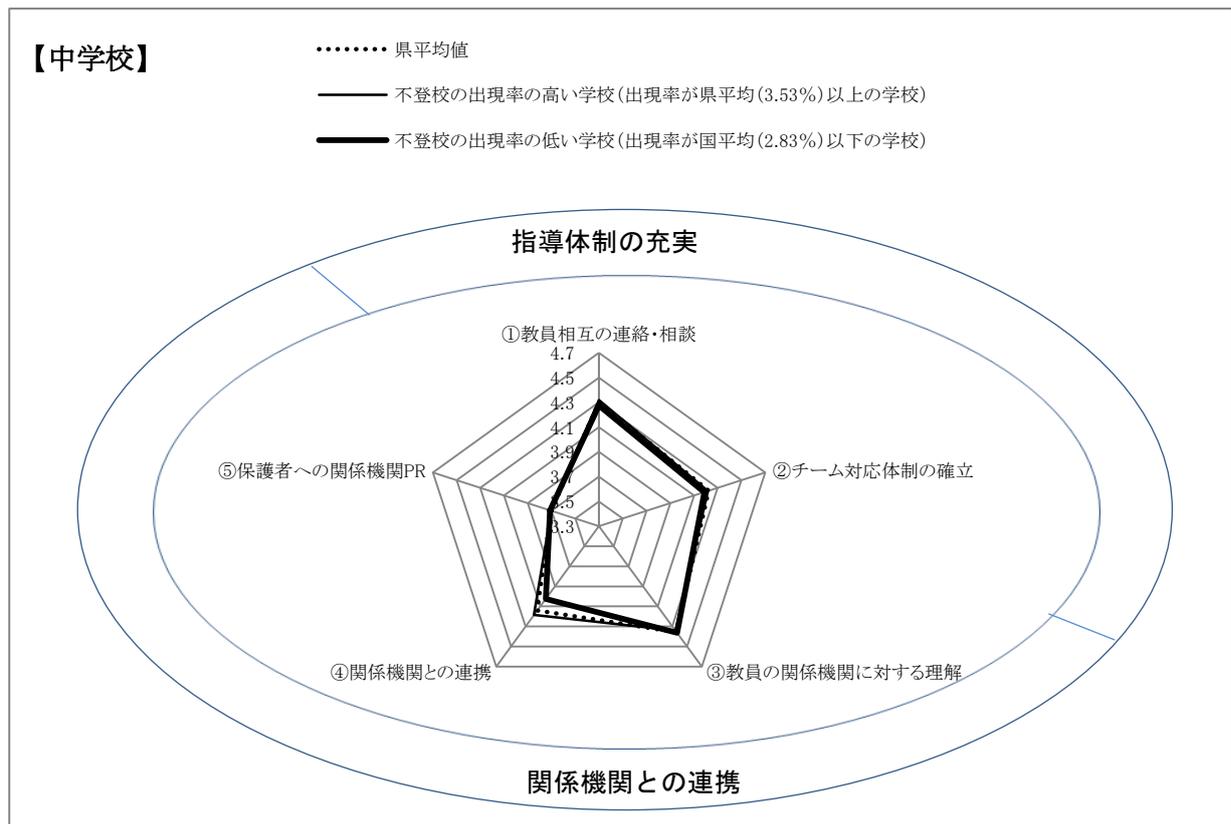
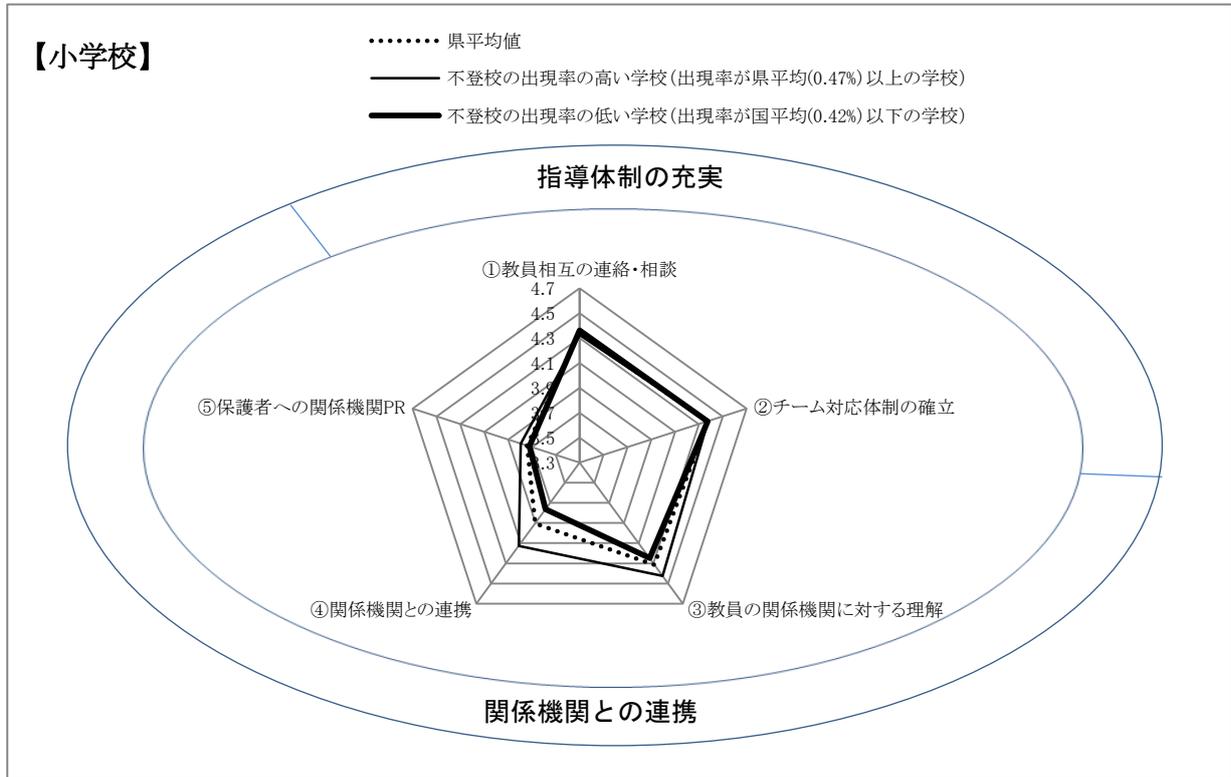
② 早期発見・早期対応に係る取組について

- 小学校においては、「⑧気がかりな点は、すぐに管理職や学年主任，教育相談担当等に報告する体制ができていた。」の数値が高く、「①子供といっしょに遊んだり，話したりする触れ合いの時間をつくっていた。」が低い。
- 中学校においては，全般的に「⑧気がかりな点は，すぐに管理職や学年主任，教育相談担当等に報告する体制ができていた。」，「⑪欠席1日目の電話対応，欠席2～3日目の家庭訪問等の早期対応を心がけていた。」の数値が高く，「④子供と信頼関係ができており，子供は悩みなどを相談してきていた。」等の数値が低い。不登校の出現率の低い中学校と高い中学校を比べると「①子供といっしょに遊んだり，話したりする触れ合いの時間をつくっていた。」，「⑨日常生活の変化など気になることをすぐ保護者と話し合っていた。」等に差が見られる。



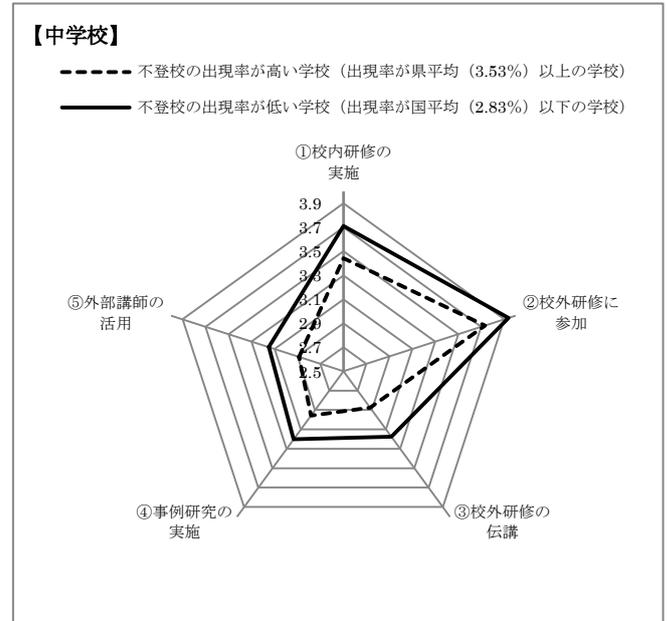
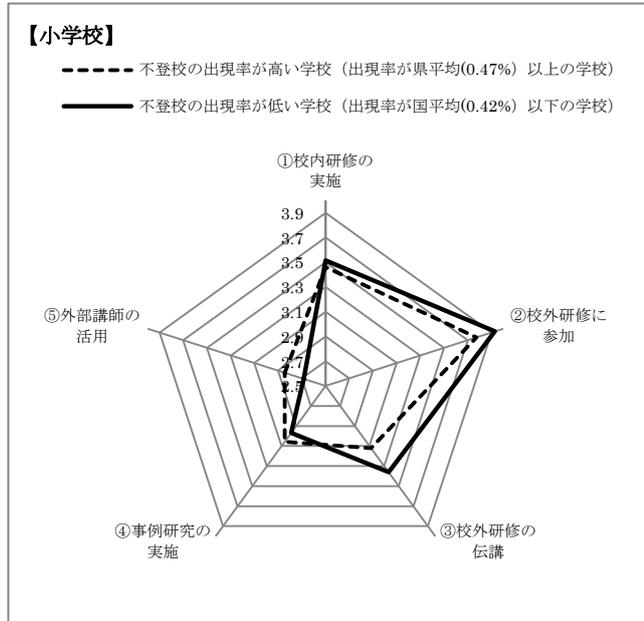
③ 事後の対応・ケアに係る取組について

- 小中学校ともに「①教職員相互の報告、連絡、相談ができていた。」、「②いつでも、チームで相談や対応ができる体制ができていた。」の数值が高く、「⑤関係機関の役割等を保護者に知らせていた。」の数值が低い。
- 不登校の出現率の高い小中学校において「④関係機関と積極的に連絡を取ったり、相談したりしていた。」の数值が比較的高い。



④ 教職員の研修について

- 小中学校ともに「②不登校に関する校外の研修会に参加した。」は高い数値を示しているが、「⑤不登校に関する研修において、外部講師（S C，S S Wを含む）を活用した。」，「④不登校の事例研究を行った。」など、校内研修会に係る数値が低い。
- 中学校では不登校の出現率が高い学校に比べて低い学校の数値が全ての項目で高く、不登校出現率と教員研修の充実度に相関が見られた。



6 今後の対応について

- (1) 本調査の結果を市町村教育委員会及び学校に周知するとともに、各種会議や研修会での活用を図り、速やかに今後の対応の改善につなげていく。
- (2) 保護者に対する関係機関のPRが不十分であることが明らかになったことから、PTAとの連携を一層進めていく。
- (3) 「生徒指導上の諸問題に関する協議会」の場において、専門的な立場から本調査の結果について協議し、次年度の施策立案等に生かしていく。

※1 平成26年度のデータに仙台市は含まない。

※2 【グラフの見方】

「未然防止に係る魅力ある学校づくり」，「早期発見・早期対応」，「事後の対応・ケア」の3観点について、自校の取組を5段階で評価した。

評価は、「5…十分できている，4…ある程度できている，3…どちらともいえない，2…あまりできていない，1…できていない（検討中，準備中）」の5段階で設定した。

不登校の出現率が高い学校と不登校の出現率が低い学校の取組状況の比較にあたっては、不登校の出現率が県平均以上の学校の平均値と全国平均以下の学校の平均値を比較した。

平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜に係る 第1回志願者予備調査について

1 調査目的

志願状況の概数を把握することで、受験生の高校選択及び中学校の進路指導等の参考資料とする

2 調査対象学校数

- ・ 県内の国立・公立・私立の中学校（210校）
- ・ 中等教育学校（2校）
- ・ 特別支援学校中学部（18校）
- ・ 県境隣接地域協定に係る中学校 岩手県（13校）及び福島県（9校）

合計 252校

3 入学者選抜実施高等学校数・学科（コースを含む）数

- | | |
|---------------------|-------------|
| （1）全日制課程 県立66校，市立4校 | 計70校 136学科 |
| （2）定時制課程 県立11校，市立2校 | 計13校 21学科 |
| | 合計75校 157学科 |

※全日制課程と定時制課程の設置校は8校

4 総括

		全日制課程				定時制課程			
		H29	H28	増減	H24	H29	H28	増減	H24
中学校卒業予定者数 (H28.5.1現在)		21,590	21,723	▲ 133	21,999				
志願者調査	募集定員	14,720	14,760	▲ 40	15,160	1,000	1,000	0	1,040
	志願者	17,526	17,937	▲ 411	18,585	314	300	14	378
	倍率	1.19	1.22	▲ 0.03	1.23	0.31	0.30	0.01	0.36
前期選抜調査	募集人数	4,846	4,842	4	5,066	296	308	▲ 12	295
	志願者	8,248	8,545	▲ 297	5,302	99	98	1	25
	倍率	1.70	1.76	▲ 0.06	1.05	0.33	0.32	0.01	0.08

※推薦入試の最終年度と比較するために、H24の数値を掲載している。

5 各高校の入学志願状況（第1回予備調査）

《全日制課程》

学校名	学科・コース	平成29年度 募集 定員	前期選抜 募集 人数	第1回志願者予備調査				左のうち 前期選抜志願者数				平成28年度		
				男	女	計	倍率	男	女	計	倍率	第1回 予備調査 倍率	前期選抜 出願倍率	後期選抜 出願倍率
1 白石	普通科	240	72	129	125	254	1.06	37	73	110	1.53	1.20	1.31	1.20
	看護科 ●	40	12	1	71	72	1.80	0	19	19	1.58	1.85	1.25	1.61
2 蔵王	普通科	80	24	18	11	29	0.36	8	6	14	0.58	0.61	0.67	0.48
3 白石工	機械科 ◎	80	32	75	6	81	1.01	50	4	54	1.69	1.20	2.31	1.02
	電気科 ◎	40	16	52	1	53	1.33	42	0	42	2.63	0.80	1.31	0.50
	工業化学科 ◎	40	16	20	17	37	0.93	12	10	22	1.38	0.98	1.81	1.58
	建築科 ◎	40	16	58	22	80	2.00	38	20	58	3.63	1.20	2.31	0.88
	設備工業科 ◎	40	16	29	3	32	0.80	18	2	20	1.25	0.85	2.19	1.79
4 村田	総合学科	120	48	35	43	78	0.65	15	21	36	0.75	0.83	0.58	1.01
5 柴田農林 川崎	食農科学科・動物科学科◎★	80	32	53	38	91	1.14	33	26	59	1.84	1.03	1.84	1.04
	森林環境科・園芸工学科◎★	80	32	33	15	48	0.60	23	11	34	1.06	0.35	1.50	1.06
	普通科	40	12	8	10	18	0.45	3	5	8	0.67	0.70	1.25	0.75
6 大河原商	流通マネジメント科◎	80	32	17	60	77	0.96	8	36	44	1.38	1.19	1.97	1.29
	情報システム科 ◎	80	32	39	49	88	1.10	23	42	65	2.03	0.86	1.16	0.77
	OA会計科 ◎	40	16	2	28	30	0.75	1	21	22	1.38	0.95	1.44	0.71
7 柴田	普通科	120	36	42	58	100	0.83	14	33	47	1.31	0.94	0.58	1.08
	体育科 ●	40	28	36	6	42	1.05	34	5	39	1.39	1.58	2.46	2.42
刈田柴田 地区 計		1,280	472	647	563	1,210	0.95	359	334	693	1.47	1.00	1.45	1.06
8 角田	普通科	160	48	78	77	155	0.97	25	44	69	1.44	0.91	1.40	0.90
9 伊具	総合学科	120	36	31	38	69	0.58	7	14	21	0.58	0.63	0.61	0.68
伊具 地区 計		280	84	109	115	224	0.80	32	58	90	1.07	0.79	1.06	0.80
南部 地区 合計		1,560	556	756	678	1,434	0.92	391	392	783	1.41	0.96	1.39	1.01
10 名取	普通科	240	72	169	198	367	1.53	64	98	162	2.25	1.49	1.40	1.57
	家政科 ●	40	16	0	83	83	2.08	0	41	41	2.56	1.88	3.13	1.50
11 名取北	普通科	280	84	175	230	405	1.45	57	102	159	1.89	1.29	1.29	1.38
12 亘理	普通科・普通コース ◎	40	16	23	21	44	1.10	8	10	18	1.13	0.95	0.38	1.15
	普通科・園芸コース ◎	40	16	24	13	37	0.93	6	6	12	0.75	0.75	0.13	1.11
	食品化学科 ◎	40	16	23	13	36	0.90	6	4	10	0.63	1.03	0.69	1.24
	商業科 ◎	40	16	11	12	23	0.58	5	6	11	0.69	0.43	0.25	0.64
	家政科 ◎	40	16	3	28	31	0.78	1	12	13	0.81	0.65	0.63	0.90
13 宮城農	農業科・園芸科 ◎★	120	48	93	60	153	1.28	53	37	90	1.88	1.15	2.50	1.26
	農業機械科 ◎	40	16	58	3	61	1.53	40	2	42	2.63	1.33	3.25	1.71
	食品化学科 ◎	40	16	34	20	54	1.35	26	11	37	2.31	1.38	3.50	1.58
	生活科 ◎	40	16	12	29	41	1.03	6	21	27	1.69	1.25	2.38	1.50
亘理名取 地区 計		1,000	348	625	710	1,335	1.34	272	350	622	1.79	1.24	1.60	1.35
14 仙前一	普通科	320	64	321	244	565	1.77	218	176	394	6.16	1.95	7.02	1.51
15 仙台二華	普通科 ■	240	40	82	159	241	1.00	10	74	84	2.10	0.90	1.60	1.01
16 仙台三桜	普通科	280	84	47	367	414	1.48	4	136	140	1.67	1.52	1.60	1.34
17 仙意向山	普通科 ◎	160	48	107	99	206	1.29	47	52	99	2.06	1.45	2.50	1.37
	理数科 ◎	40	16	19	11	30	0.75	6	8	14	0.88	0.83	1.19	1.29
18 仙台南	普通科	280	84	244	268	512	1.83	60	124	184	2.19	1.88	2.10	1.80
19 仙台西	普通科	280	84	161	170	331	1.18	49	66	115	1.37	1.23	1.38	1.43
20 仙台東	普通科	240	72	178	145	323	1.35	40	60	100	1.39	1.43	1.46	1.45
	英語科 ●	40	12	19	27	46	1.15	4	12	16	1.33	1.28	1.08	1.50
21 宮城工	機械科 ◎	80	32	116	4	120	1.50	42	2	44	1.38	1.74	2.69	1.54
	電子機械科 ◎	40	16	61	3	64	1.60	28	1	29	1.81	1.43	2.56	1.42
	電気科 ◎	80	32	81	1	82	1.03	32	1	33	1.03	1.03	2.16	1.17
	情報技術科 ◎	40	16	49	9	58	1.45	21	6	27	1.69	1.90	2.44	1.96
	化学工業科 ◎	40	16	30	9	39	0.98	13	8	21	1.31	0.80	2.38	1.92
	インテリア科 ◎	40	16	25	62	87	2.18	8	36	44	2.75	1.95	3.06	1.88
22 仙台工※	建築科 ◎	30	12	71	19	90	3.00	26	8	34	2.83	2.60	2.08	2.00
	機械科 ◎	70	28	128	4	132	1.89	39	3	42	1.50	1.70	1.21	2.10
	電気科 ◎	70	28	59	3	62	0.89	21	1	22	0.79	1.03	1.18	1.90
	土木科 ◎	30	12	47	7	54	1.80	21	4	25	2.08	1.73	1.17	2.06
仙台南 地区 計		2,400	712	1,845	1,611	3,456	1.44	689	778	1,467	2.06	1.49	2.28	1.51
中部南 地区 合計		3,400	1,060	2,470	2,321	4,791	1.41	961	1,128	2,089	1.97	1.42	2.06	1.46

5 各高校の入学志願状況（第1回予備調査）

《全日制課程》

学校名	学科・コース	平成29年度 募集 定員	前期選抜 募集 人数	第1回志願者予備調査				左のうち 前期選抜志願者数				平成28年度		
				男	女	計	倍率	男	女	計	倍率	第1回 予備調査 倍率	前期選抜 出願倍率	後期選抜 出願倍率
23 仙台二	普通科	320	96	280	176	456	1.43	147	130	277	2.89	1.17	2.59	1.21
24 仙台三	普通科	240	72	367	194	561	2.34	196	136	332	4.61	2.33	4.24	1.70
	理数科 ●	80	32	58	14	72	0.90	35	10	45	1.41	0.84	2.00	1.42
25 宮城一	普通科 ◎	200	60	28	206	234	1.17	8	121	129	2.15	1.53	2.65	1.69
	理数科 ◎	80	32	14	36	50	0.63	1	20	21	0.66	0.50	0.94	0.88
26 宮城広瀬	普通科	280	70	137	200	337	1.20	25	56	81	1.16	1.18	1.24	1.48
27 泉	普通科	240	72	224	220	444	1.85	35	82	117	1.63	2.25	1.60	1.93
	英語科 ●	40	16	19	36	55	1.38	2	12	14	0.88	1.55	2.56	1.92
28 泉松陵	普通科	280	84	160	144	304	1.09	38	52	90	1.07	1.08	1.18	1.50
29 泉館山	普通科	280	84	177	180	357	1.28	42	82	124	1.48	1.34	1.18	1.46
30 宮城野	普通科	160	40	109	154	263	1.64	24	66	90	2.25	1.54	1.84	1.46
	美術科 ◎	40	20	5	62	67	1.68	1	51	52	2.60	1.73	2.90	1.00
	総合学科 ●	80	24	34	52	86	1.08	8	14	22	0.92	1.10	1.25	1.29
31 仙 台※	普通科	280	84	208	187	395	1.41	55	68	123	1.46	1.63	1.73	1.63
32 仙 台商※	商業科	320	128	207	284	491	1.53	73	109	182	1.42	1.57	1.72	1.58
仙台北地区計		2,920	914	2,027	2,145	4,172	1.43	690	1,009	1,699	1.86	1.48	1.94	1.52
33 塩 釜	普通科	320	80	189	268	457	1.43	66	107	173	2.16	1.58	1.24	1.57
	ビジネス科	80	24	37	67	104	1.30	14	32	46	1.92	1.40	0.71	1.71
34 多賀城	普通科	240	72	142	200	342	1.43	89	131	220	3.06	1.54	3.46	1.42
	災害科学科 ●	40	16	20	5	25	0.63	14	4	18	1.13	1.00	2.06	0.92
35 松 島	普通科 ◎	120	36	91	103	194	1.62	41	54	95	2.64	1.74	2.33	1.87
	観光科 ◎	80	32	41	40	81	1.01	14	15	29	0.91	0.88	2.50	1.32
36 利 府	普通科	200	60	103	103	206	1.03	46	54	100	1.67	1.25	1.70	1.32
	スポーツ科学科 ●	80	56	123	40	163	2.04	81	32	113	2.02	1.61	1.93	1.54
塩釜地区計		1,160	376	746	826	1,572	1.36	365	429	794	2.11	1.45	2.04	1.50
37 黒 川	普通科 ◎	80	24	56	70	126	1.58	17	19	36	1.50	1.33	0.88	1.18
	機械科 ◎	80	32	72	2	74	0.93	26	1	27	0.84	0.85	0.53	0.89
	電子工学科 ◎	40	16	15	2	17	0.43	6	0	6	0.38	0.75	0.88	0.85
	環境技術科 ◎	40	16	21	18	39	0.98	6	10	16	1.00	1.35	1.19	1.38
38 富 谷	普通科・人文コース ◎	120	48	71	110	181	1.51	12	39	51	1.06	1.68	1.08	1.64
	普通科・国際コース ◎	80	32	22	45	67	0.84	6	25	31	0.97	0.86	1.03	1.17
	普通科・理数コース ◎	80	32	44	36	80	1.00	14	20	34	1.06	1.11	0.84	1.68
黒川地区計		520	200	301	283	584	1.12	87	114	201	1.01	1.19	0.92	1.29
中部北地区合計		4,600	1,490	3,074	3,254	6,328	1.38	1,142	1,552	2,694	1.81	1.44	1.83	1.49
39 古 川	普通科	240	72	177	135	312	1.30	120	108	228	3.17	1.31	2.74	1.17
40 古川黎明	普通科 ■	240	40	81	158	239	1.00	12	62	74	1.85	1.24	2.13	1.29
41 岩出山	普通科	120	36	49	59	108	0.90	21	32	53	1.47	0.66	1.17	0.77
42 中新田	普通科	120	36	38	59	97	0.81	22	37	59	1.64	0.84	2.17	1.01
43 松 山	普通科	40	12	12	7	19	0.48	6	4	10	0.83	0.43	0.50	0.32
	家政科 ●	40	16	1	28	29	0.73	1	17	18	1.13	0.83	2.00	0.88
44 加美農	農業科 ◎	40	16	15	5	20	0.50	5	2	7	0.44	0.48	0.69	0.27
	農業機械科 ◎	40	16	28	0	28	0.70	11	0	11	0.69	0.60	0.69	0.70
	生活技術科 ◎	40	16	2	15	17	0.43	1	7	8	0.50	0.35	0.88	0.22
45 古川工	土木情報科 ◎	40	16	58	19	77	1.93	26	9	35	2.19	1.68	1.50	1.54
	建築科 ◎	40	16	32	38	70	1.75	16	22	38	2.38	1.50	1.56	1.17
	電気電子科 ◎	40	16	45	12	57	1.43	23	4	27	1.69	0.70	0.56	0.81
	機械科 ◎	80	32	108	2	110	1.38	53	0	53	1.66	1.24	1.16	1.08
	化学技術科 ◎	40	16	19	39	58	1.45	10	25	35	2.19	1.53	0.94	1.73
46 鹿島台商	商業科	120	48	33	22	55	0.46	22	12	34	0.71	0.46	1.15	0.67
大崎地区計		1,280	404	698	598	1,296	1.01	349	341	690	1.71	0.99	1.59	0.97
47 涌 谷	普通科	160	48	58	54	112	0.70	18	34	52	1.08	0.56	1.38	0.63
48 小牛田農林	農業技術科・農業科学コース◎	40	16	23	18	41	1.03	16	14	30	1.88	1.35	1.94	1.33
	農業技術科・農業土木コース◎	40	16	33	9	42	1.05	20	7	27	1.69	1.28	1.44	1.96
	総合学科	120	48	46	90	136	1.13	25	54	79	1.65	1.44	2.46	1.17
49 南 郷	普通科	40	12	9	8	17	0.43	2	3	5	0.42	0.60	0.83	0.47
	産業技術科	40	16	21	2	23	0.58	5	1	6	0.38	0.68	0.56	0.94
遠田地区計		440	156	190	181	371	0.84	86	113	199	1.28	0.95	1.65	0.94

5 各高校の入学志願状況（第1回予備調査）

《全日制課程》

学校名	学科・コース	平成29年度 募集 定員	前期選抜 募集 人数	第1回志願者予備調査				左のうち 前期選抜志願者数				平成28年度		
				男	女	計	倍率	男	女	計	倍率	第1回 予備調査 倍率	前期選抜 出願倍率	後期選抜 出願倍率
50 佐 沼	普通科	240	72	106	105	211	0.88	57	67	124	1.72	1.25	2.47	1.17
51 登 米	普通科	120	36	65	78	143	1.19	36	59	95	2.64	1.38	2.44	1.25
52 登米総合産業	農業科 ◎	40	16	32	10	42	1.05	9	2	11	0.69	0.95	0.88	1.10
	機械科 ◎	40	16	42	2	44	1.10	19	1	20	1.25	1.03	1.00	1.08
	電気科 ◎	40	16	16	0	16	0.40	4	0	4	0.25	0.60	0.81	0.56
	情報技術科 ◎	40	16	11	12	23	0.58	5	9	14	0.88	0.70	1.13	0.92
	商業科 ◎	40	16	8	32	40	1.00	4	23	27	1.69	0.50	1.25	0.79
	福祉科 ◎	40	16	7	19	26	0.65	4	9	13	0.81	0.85	1.25	0.72
登米地区計		600	204	287	258	545	0.91	138	170	308	1.51	1.08	1.80	1.07
53 築 館	普通科	160	48	89	84	173	1.08	50	52	102	2.13	1.07	2.27	1.13
54 岩ヶ崎	普通科・文系教養コース◎	80	32	18	31	49	0.61	6	23	29	0.91	0.69	0.81	0.57
	普通科・理系教養コース◎	40	16	21	10	31	0.78	18	5	23	1.44	0.35	0.44	0.42
55 迫 桜	総合学科	200	80	104	110	214	1.07	45	74	119	1.49	0.83	1.30	0.82
56 一 迫 商	流通経済科 ◎	40	16	11	11	22	0.55	5	6	11	0.69	0.48	0.88	0.58
	情報処理科 ◎	40	16	14	2	16	0.40	5	0	5	0.31	0.60	0.94	0.40
栗原地区計		560	208	257	248	505	0.90	129	160	289	1.39	0.80	1.32	0.79
北部地区合計		2,880	972	1,432	1,285	2,717	0.94	702	784	1,486	1.53	0.97	1.58	0.95
57 石 巻	普通科	240	72	125	127	252	1.05	60	77	137	1.90	1.09	2.67	1.02
58 石巻好文館	普通科	200	60	72	129	201	1.01	25	79	104	1.73	0.97	1.15	1.00
59 石巻西	普通科	200	60	96	168	264	1.32	46	103	149	2.48	1.24	1.15	0.87
60 石巻北	総合学科	200	80	99	107	206	1.03	47	58	105	1.31	0.88	0.83	0.77
61 宮城水産	海洋総合科	160	64	70	22	92	0.58	40	18	58	0.91	0.57	1.28	0.86
62 石巻工	機械科 ◎	80	32	92	2	94	1.18	50	0	50	1.56	1.36	2.47	1.19
	電気情報科 ◎	40	16	44	2	46	1.15	32	2	34	2.13	0.95	1.75	0.67
	化学技術科 ◎	40	16	9	5	14	0.35	5	4	9	0.56	0.40	1.13	0.54
	土木システム科 ◎	40	16	51	1	52	1.30	17	1	18	1.13	1.60	2.81	1.71
	建築科 ◎	40	16	38	10	48	1.20	22	8	30	1.88	1.75	2.31	1.13
63 石巻商	総合ビジネス科	200	80	103	88	191	0.96	55	54	109	1.36	0.90	1.45	0.97
64 桜 坂※	普通科・学励探求コース◎	120	48	0	73	73	0.61	0	58	58	1.21	0.43	1.13	0.21
	普通科・キャリア探求コース◎	80	32	0	89	89	1.11	0	67	67	2.09	0.93	1.66	0.96
石巻地区計		1,640	592	799	823	1,622	0.99	399	529	928	1.57	0.96	1.53	0.89
65 気仙沼	普通科	200	60	123	148	271	1.36	57	65	122	2.03	1.04	1.56	1.07
66 気仙沼西	普通科	80	24	22	59	81	1.01	4	18	22	0.92	1.20	1.13	0.95
67 志津川	普通科 ☆	80	4	34	28	62	0.78	3	5	8	2.00	0.74	0.75	0.19
	情報ビジネス科 ☆	40	4	4	6	10	0.25	0	3	3	0.75	0.33	0.50	0.37
68 本吉響	総合学科	120	36	32	30	62	0.52	8	18	26	0.72	0.63	0.89	0.86
69 気仙沼向洋	情報海洋科 ◎	40	16	37	2	39	0.98	26	0	26	1.63	0.95	1.06	0.92
	産業経済科 ◎	40	16	18	30	48	1.20	12	15	27	1.69	1.38	1.75	1.33
	機械技術科 ◎	40	16	59	2	61	1.53	33	1	34	2.13	1.38	1.69	1.13
本吉地区計		640	176	329	305	634	0.99	143	125	268	1.52	0.94	1.32	0.91
東部地区合計		2,280	768	1,128	1,128	2,256	0.99	542	654	1,196	1.56	0.95	1.48	0.90
全 日 制 合 計		14,720	4,846	8,860	8,666	17,526	1.19	3,738	4,510	8,248	1.70	1.22	1.72	1.24

◎は後期選抜において、出願学科以外のいずれか1つを第2志望とできる学科(柴田農林においては川崎校を除く)、●は後期選抜において、普通科を第2志望にできる学科、★は一括募集、☆は連携型入試を実施する学科、※は市立高等学校を示す。■は併設中学校からの入学を含む。

5 各高校の入学志願状況（第1回予備調査）

《定時制課程》

学校名	学科・コース	平成29年度 募集 定員	前期選抜 募集 人数	第1回志願者予備調査				左のうち 前期選抜志願者数				平成28年度		
				男	女	計	倍率	男	女	計	倍率	第1回 予備調査 倍率	前期選抜 出願倍率	後期選抜 出願倍率
1 白石七ヶ宿	普通科 / 昼	40	12	4	8	12	0.30	2	2	4	0.33	0.25	0.75	0.35
2 大河原商	普通科 / 夜	40	8	6	3	9	0.23	0	1	1	0.13	0.08	0.13	0.13
3 宮城二工	電子機械科 / 夜 ◎	40	16	6	0	6	0.15	2	0	2	0.13	0.10	0.44	0.11
	電気科 / 夜 ◎	40	16	1	0	1	0.03	0	0	0	0.00	0.03	0.06	0.05
4 名 取	普通科 / 夜	40	12	6	2	8	0.20	0	0	0	0.00	0.15	0.17	0.13
5 貞 山	普通科 / 昼	120	36	33	18	51	0.43	6	8	14	0.39	0.48	1.17	0.48
	普通科 / 夜	40	12	4	2	6	0.15	0	0	0	0.00	0.25	0.58	0.12
6 古川工	機械科 / 夜 ◎	40	12	5	0	5	0.13	3	0	3	0.25	0.15	0.17	0.13
	電気科 / 夜 ◎	40	12	2	3	5	0.13	0	1	1	0.08	0.08	0.08	0.05
7 田尻さくら	普通科 / I部（午前）	80	24	13	16	29	0.36	7	3	10	0.42	0.31	0.75	0.45
	普通科 / II部（午後夕間）	40	12	3	2	5	0.13	0	0	0	0.00	0.13	0.17	0.16
8 佐 沼	普通科 / 夜	40	12	1	3	4	0.10	0	0	0	0.00	0.08	0.33	0.03
9 東 松 島	普通科 / I部（午前）◎	40	8	19	18	37	0.93	6	11	17	2.13	0.78	1.75	0.93
	普通科 / II部（午後）◎	40	8	8	14	22	0.55	0	4	4	0.50	0.45	0.92	1.00
	普通科 / III部（夜間）◎	40	8	5	2	7	0.18	1	0	1	0.13	0.20	0.08	0.08
10 石巻北飯野川	普通科 / 昼	40	12	4	2	6	0.15	2	1	3	0.25	0.23	0.25	0.30
11 気仙沼	普通科 / 夜	40	8	1	3	4	0.10	0	0	0	0.00	0.05	0.00	0.08
12 仙台大志※	普通科 / I部（午前午後）◎	90	27	41	29	70	0.78	14	15	29	1.07	0.78	2.15	1.25
	普通科 / II部（午後夜間）◎	30	9	8	5	13	0.43	2	1	3	0.33	0.50	0.89	0.50
13 仙 台 工※	建築土木科 / 夜 ◎	40	16	7	2	9	0.23	2	2	4	0.25	0.08	0.19	0.08
	機械科 / 夜 ◎	40	16	5	0	5	0.13	3	0	3	0.19	0.28	0.19	0.27
定 時 制 合 計		1,000	296	182	132	314	0.31	50	49	99	0.33	0.30	0.66	0.34

◎は後期選抜において、出願学科以外のいずれか1つを第2志望とできる学科、※は市立高等学校を示す。

《連携型選抜》

学校名	学科・コース	平成29年度 募集 定員	連携型 選抜 募集人数	連携型選抜出願者数等				
				平成29年度			平成28年度	
				男	女	計	出願者数	合格者数
67 志津川	普通科	80	72	31	22	53	49	45
	情報ビジネス科	40	34	3	3	6	14	8
連 携 型 選 抜 合 計		120	106	34	25	59	63	53

補助資料

1 志願者調査(全日制)

年度	H29	H28	H27	H26	H24※
中学校卒業者	21,590	21,723	21,756	22,011	21,999
募集定員	14,720	14,760	14,920	15,080	15,160
志願者数	17,526	17,937	17,945	18,127	18,585
志願倍率	1.19	1.22	1.20	1.20	1.23

※H24の値は旧制度実施時のもの

2 前期選抜調査(全日制)…地区別

地区	H29	H28	H27	H26	H24※
南部	1.41	1.36	1.18	1.58	0.69
中部南	1.97	2.13	1.85	2.64	1.32
中部北	1.81	1.92	1.93	2.59	1.31
北部	1.53	1.54	1.40	1.66	0.73
東部	1.56	1.56	1.52	1.74	0.85
全日制合計	1.70	1.76	1.65	2.15	1.05

※H24の値は旧制度(推薦入試)実施時のもの

3 前期選抜調査(全日制)…学科別

学科	H29	H28	H27	H26	H24※
普通	1.96	2.05	1.86	2.66	1.22
農業	1.39	1.30	1.03	1.33	0.45
工業	1.55	1.64	1.54	1.69	0.89
商業	1.28	1.23	1.27	1.60	0.96
水産	1.16	1.03	0.89	1.18	0.51
体育	1.81	1.83	1.96	2.27	1.42
英語	1.07	2.00	1.79	2.46	1.09
家庭	1.50	1.56	1.10	1.81	0.92
看護	1.58	2.58	2.25	2.75	1.81
理数	1.00	0.85	1.54	1.28	1.00
美術	2.60	2.75	3.00	2.30	0.96
総合	1.16	1.20	1.30	1.24	0.60
福祉	0.81	1.13	1.31	—	—
災害科学	1.13	1.94	—	—	—
全日制合計	1.70	1.76	1.65	2.15	1.05

※H24の値は旧制度(推薦入試)実施時のもの

4 学校・学科別の志願倍率（全日制）

(1) 志願者調査

(H29)

No.	学校名	学科名	倍率
1	仙台工	建築科	3.00
2	仙台三	普通科	2.34
3	宮城工	インテリア科	2.18
4	名取	家政科	2.08
5	利府	スポーツ科学科	2.04
6	白石工	建築科	2.00
7	古川工	土木情報科	1.93
8	仙台工	機械科	1.89
9	泉	普通科	1.85
10	仙台南	普通科	1.83

(H28)

No.	学校名	学科名	倍率
1	仙台工	建築科	2.60
2	仙台三	普通科	2.33
3	泉	普通科	2.25
4	仙合一	普通科	1.95
4	宮城工	インテリア科	1.95
6	宮城工	情報技術科	1.90
7	名取	家政科	1.88
7	仙台南	普通科	1.88
9	白石	看護科	1.85
10	石巻工	建築科	1.75

(2) 前期選抜調査

(H29)

No.	学校名	学科名	倍率
1	仙合一	普通科	6.16
2	仙台三	普通科	4.61
3	白石工	建築科	3.63
4	古川	普通科	3.17
5	多賀城	普通科	3.06
6	仙台二	普通科	2.89
7	仙台工	建築科	2.83
8	宮城工	インテリア科	2.75
9	松島	普通科	2.64
9	登米	普通科	2.64

(H28)

No.	学校名	学科名	倍率
1	仙合一	普通科	6.66
2	仙台三	普通科	4.71
3	宮城工	インテリア科	3.38
4	多賀城	普通科	3.32
5	石巻工	建築科	3.06
6	宮城一	普通科	3.02
7	古川	普通科	2.97
8	宮城工	情報技術科	2.88
9	仙台工	建築科	2.83
9	登米	普通科	2.83

5 平成28年度に学科改編を行った学校・学科の志願倍率等

(1) 志願者調査

学校名	学科名	募集定員	H29		H28	
			志願者	倍率	志願者	倍率
多賀城	災害科学科	40	25	0.63	40	1.00

(2) 前期選抜調査

学校名	学科名	募集人数	H29		H28	
			志願者	倍率	志願者	倍率
多賀城	災害科学科	16	18	1.13	31	1.94

6 平成27年度に学科改編を行った学校・学科の志願倍率等

(1) 志願者調査

学校名	学科名	募集定員	H29		H28		H27	
			志願者	倍率	志願者	倍率	志願者	倍率
登米 総合産業	農業科	40	42	1.05	38	0.95	33	0.83
	機械科	40	44	1.10	41	1.03	38	0.95
	電気科	40	16	0.40	24	0.60	13	0.33
	情報技術科	40	23	0.58	28	0.70	32	0.80
	商業科	40	40	1.00	20	0.50	21	0.53
	福祉科	40	26	0.65	34	0.85	38	0.95
合計		240	191	0.80	185	0.77	175	0.73

学校名	学科名	募集定員	H29		H28		H27	
			志願者	倍率	志願者	倍率	志願者	倍率
桜坂	普通科・学励探求コース	120	73	0.61	52	0.43	78	0.65
	普通科・キャリア探求コース	80	89	1.11	74	0.93	69	0.86
合計		200	162	0.81	126	0.63	147	0.74

(2) 前期選抜調査

学校名	学科名	募集人数	H29		H28		H27	
			志願者	倍率	志願者	倍率	志願者	倍率
登米 総合産業	農業科	16	11	0.69	18	1.13	7	0.44
	機械科	16	20	1.25	15	0.94	21	1.31
	電気科	16	4	0.25	10	0.63	9	0.56
	情報技術科	16	14	0.88	10	0.63	15	0.94
	商業科	16	27	1.69	10	0.63	12	0.75
	福祉科	16	13	0.81	18	1.13	21	1.31
合計		96	89	0.93	81	0.84	85	0.89

学校名	学科名	募集人数	H29		H28		H27	
			志願者	倍率	志願者	倍率	志願者	倍率
桜坂	普通科・学励探求コース	48	58	1.21	41	0.85	64	1.33
	普通科・キャリア探求コース	32	67	2.09	57	1.78	52	1.63
合計		80	125	1.56	98	1.23	116	1.45

7 今後の入試日程

(1) 第2回志願者予備調査		1月 4日(水)～1月 6日(金)
(2) 前期選抜	出願期間	1月10日(火)～1月13日(金) 午前11時
	学力検査・学校独自検査	2月 1日(水)
	合格発表	2月9日(木) 午後4時
(3) 後期選抜	出願期間	2月21日(火)～2月24日(金) 午前11時
	学力検査	3月 8日(水)
	合格発表	3月16日(木) 午後3時
(4) 第二次募集	出願期間	3月17日(金)～3月21日(火) 午後3時
	学力検査等	3月22日(水)
	合格発表	3月22日(水)または3月23日(木)

平成28年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について

1 目的	生徒の学力状況と学習、生活、「志教育」に関する意識等について調査分析し、各学校における学習指導の取組、本県の学力向上施策の改善に役立てる。
2 調査対象	公立(県立, 仙台市立, 石巻市立)高校1年生約14,800人, 2年生約15,000人
3 実施期間	平成28年7月1日(金)～7月8日(金)
4 調査項目	○学力状況に関する調査: 2学年 ・国語, 数学, 英語の3教科: A問題(基本), B問題(応用)を選択 ○学習状況, 震災後の心身の健康及び「志教育」等に関する調査: 1・2学年

※()内は前年度の正答率

5 学力状況に関する調査結果の概要(2学年)		別冊 2～6ページ	共通問題正答率
国語	○漢字, 慣用句等の基礎知識の定着は見られるが, 叙述に即して論理的に正答を導き出す力に課題 ・言語事項では, 基本的な漢字の読み書き, 慣用句, 日本語の適切な表現に関する知識の定着は見られるものの, 敬語についての理解は不十分である。 ・現代文では, 心情の変化を捉える力, 内容を理解する力に, 古典では, 基本的な語句や文法を踏まえ, 文章内容を正しく読み取る力に課題が見られる。		55.3 (42.2)
数学	○基礎的・基本的な知識・技能の定着は見られるが, グラフや数直線を用いて問題を解決する力に課題 ・整式の計算, 分母の有理化, 二次方程式や三角比の値を求めることについては, 一定の定着が見られる。 ・グラフや数直線を用いて問題を解決し, 解答を吟味する力に課題が見られる。		48.1 (42.2)
英語	○基礎的・基本的な知識は身に付いているが, 長文の要点や概要を把握する力に課題 ・代名詞や過去分詞の後置修飾など, 基礎的・基本的な知識については定着が見られる。 ・長文では, 内容全体の流れや要旨を捉えたり, 英文を限られた時間内で読む力が不足している。		48.2 (48.0)

6 学習状況等に関する調査結果の概要(1学年・2学年)		別冊 7～21ページ
学習	○平日1日2時間以上学習する生徒の割合は, 1学年で19%, 2学年で13%程度。 ○意見発表や話し合う時間が持たれている授業では, 生徒の授業理解度が高い傾向にある。 ○平日に最も時間をかけていることで, ゲームやインターネットが急増。特に, スマートフォンでのゲームや動画の視聴が増加している。 ○家庭学習での悩みとして「集中できない」を挙げる生徒が多く, 1学年, 2学年ともに約3割となる。スマートフォンや携帯電話に2時間以上割く生徒の割合との関連に注意が必要。	
生活	○生活習慣, 体調管理, 食生活については, 7～8割の生徒が安定的な生活を送っている。 ○1学年では約8割, 2学年では7割強の生徒が, 学校生活に充実感や満足感を感じている。 ○勉強に集中できている生徒は, 1学年で6割弱, 2学年で5割強。	
志教育	○「志教育」の3つの視点に関する意識については, 概ね7～9割の生徒が良好な状況。 ○他項目に比べ, 「自分の個性や適性が分かっている」については6割～7割と低い傾向。	

7 学力向上に向けた今後の取組	
○「分かる授業, 考えさせる授業」の実践 ○「志教育」の推進 ○家庭と学校との連携	○家庭学習時間の確保 ○生活習慣の改善 ○学力向上施策の推進